

平成25・26年度
船橋市自然環境調査
報告書

平成27年3月
船橋市

目次

1.	自然環境調査の概要	1
1.1	調査の目的	1
1.2	調査内容	2
1.3	三番瀬に関するとりまとめ	11
2.	調査結果の概要	12
2.1	植物	12
2.2	哺乳類	16
2.3	鳥類	17
2.4	両生類・爬虫類	19
2.5	昆虫類	21
2.6	魚類	23
2.7	底生動物	24
3.	各調査地域の特徴	25
3.1	St.1 船橋大神宮周辺	26
3.2	St.2 田喜野井周辺	27
3.3	St.3 高根川流域	28
3.4	St.4 大穴北周辺	30
3.5	St.5 県民の森周辺	31
3.6	St.6 古作町周辺	32
3.7	St.7 神崎川流域	33
3.8	St.8 鈴身川流域	35
3.9	St.9 旧坪井川流域	37
3.10	St.10 船橋馬込霊園奥の馬込谷地	38
3.11	St.11 丸山の森緑地	39
3.12	St.12 藤原市民の森	40
3.13	St.13 長津川調節池公園	41
3.14	St.14 海老川流域	42
3.15	St.15 二重川流域（上流）	43
3.16	St.16 二重川流域（下流）	45
3.17	ふなばし三番瀬海浜公園周辺	46
4.	船橋市の自然環境の特徴	47
4.1	自然環境を代表する種	47
4.2	特定外来生物・要注意外来生物	51
4.3	自然環境別の特徴	53
	資料編：用語解説	61

●用語解説について

専門用語などのわかりにくい言葉については、初出の際に◇を表示し、「資料編：用語解説」に解説を記載した。

1. 自然環境調査の概要

1.1 調査の目的

今回の調査は、船橋市が実施する(仮称)船橋市生物多様性地域戦略[◇]策定事業において、市内の自然環境調査を行い、市の貴重な自然及び希少な保護すべき動植物や外来種[◇]等に関する自然環境状況を把握し、船橋市生物多様性地域戦略の基礎資料とすることを目的として実施した。

また、今回の調査結果に基づき、過年度に実施した「船橋市内環境調査[◇]報告書」(船橋市、平成14年3月)(以下、「前回調査」という。)と比較し、市内の動植物相の変遷や生物多様性[◇]の保全についてとりまとめるものとする。

1.2 調査内容

今回の調査は、前回調査を基本として実施した。なお、三番瀬を含む調査地域については、千葉県が別途、自然環境調査を実施しており、また、今後も調査の実施を予定しているため、今回の調査地域からは除いた。とりまとめにあたっては、千葉県が実施した調査結果を整理した。

1.2.1 調査項目及び時期

調査項目及び調査時期は表 1-1 に示すとおりである。

表 1-1 調査項目及び調査時期

調査項目		調査時期	実施日	
植物 (水生植物含む)	植生の分布図	-	既存の地理情報を活用した調査としたため、 現地調査は実施していない	
	植生調査	夏季	平成 26 年 7 月 7 日～10 日、14～15 日 平成 26 年 8 月 21 日	
	植物相調査	秋季	平成 25 年 11 月 11 日～13 日	
		春季	平成 26 年 4 月 22 日～24 日	
夏季		平成 26 年 7 月 22 日～24 日		
哺乳類	フィールドサイン調査	秋季	平成 25 年 11 月 6 日～8 日	
		冬季	平成 26 年 2 月 24 日～27 日	
		春季	平成 26 年 4 月 9 日～11 日	
		夏季	平成 26 年 7 月 1 日～3 日	
	トラップ調査	秋季	平成 25 年 10 月 29 日～11 月 1 日	
		冬季	平成 26 年 2 月 18 日～19 日、25 日～26 日	
鳥類	定点調査	秋季	平成 25 年 10 月 28 日～30 日	
		冬季	平成 26 年 1 月 27 日～29 日	
		春季	平成 26 年 4 月 16 日～18 日	
		初夏	平成 26 年 6 月 25 日～27 日	
	ラインセンサス調査	秋季	平成 25 年 10 月 28 日～30 日	
		冬季	平成 26 年 1 月 27 日～29 日	
		春季	平成 26 年 4 月 16 日～18 日	
		初夏	平成 26 年 6 月 25 日～27 日	
		両生類・爬虫類	秋季	平成 25 年 11 月 6 日～8 日
			春季	平成 26 年 4 月 9 日～11 日
夏季	平成 26 年 7 月 1 日～3 日			
昆虫類	任意採取法	秋季	平成 25 年 10 月 8 日～10 日 平成 25 年 10 月 31 日～11 月 1 日	
		春季	平成 26 年 4 月 22 日～25 日	
		夏季	平成 26 年 7 月 1 日、2 日 ^{※1} 平成 26 年 7 月 14 日～16 日	
	ベイトトラップ法	秋季	平成 25 年 10 月 8 日～10 日 平成 25 年 10 月 29 日～11 月 1 日	
		春季	平成 26 年 4 月 14 日～17 日	
		夏季	平成 26 年 7 月 15 日～18 日	
魚類	秋季	平成 25 年 10 月 29 日～31 日		
	春季	平成 26 年 4 月 21 日～23 日、28 日		
	夏季	平成 26 年 7 月 22 日～25 日		
底生動物	冬季	平成 26 年 1 月 21 日～24 日		
	初夏	平成 26 年 6 月 17 日～20 日		
	夏季	平成 26 年 7 月 22 日～25 日		
環境要素	環境要素全体	随時実施		
	湧水	秋季	平成 25 年 10 月 28 日～30 日	
		春季	平成 26 年 1 月 27 日～28 日	
		初夏	平成 26 年 6 月 17 日、20 日	

※1：哺乳類、両生類・爬虫類の夜間調査にあわせてホタルの調査を実施した。

1.2.2 調査地域

調査地域の概要は表 1-2 に示すとおりであり、調査項目別の調査地域を表 1-3 に、その位置は図 1-1 に示すとおりである。

表 1-2 調査地域概要※¹

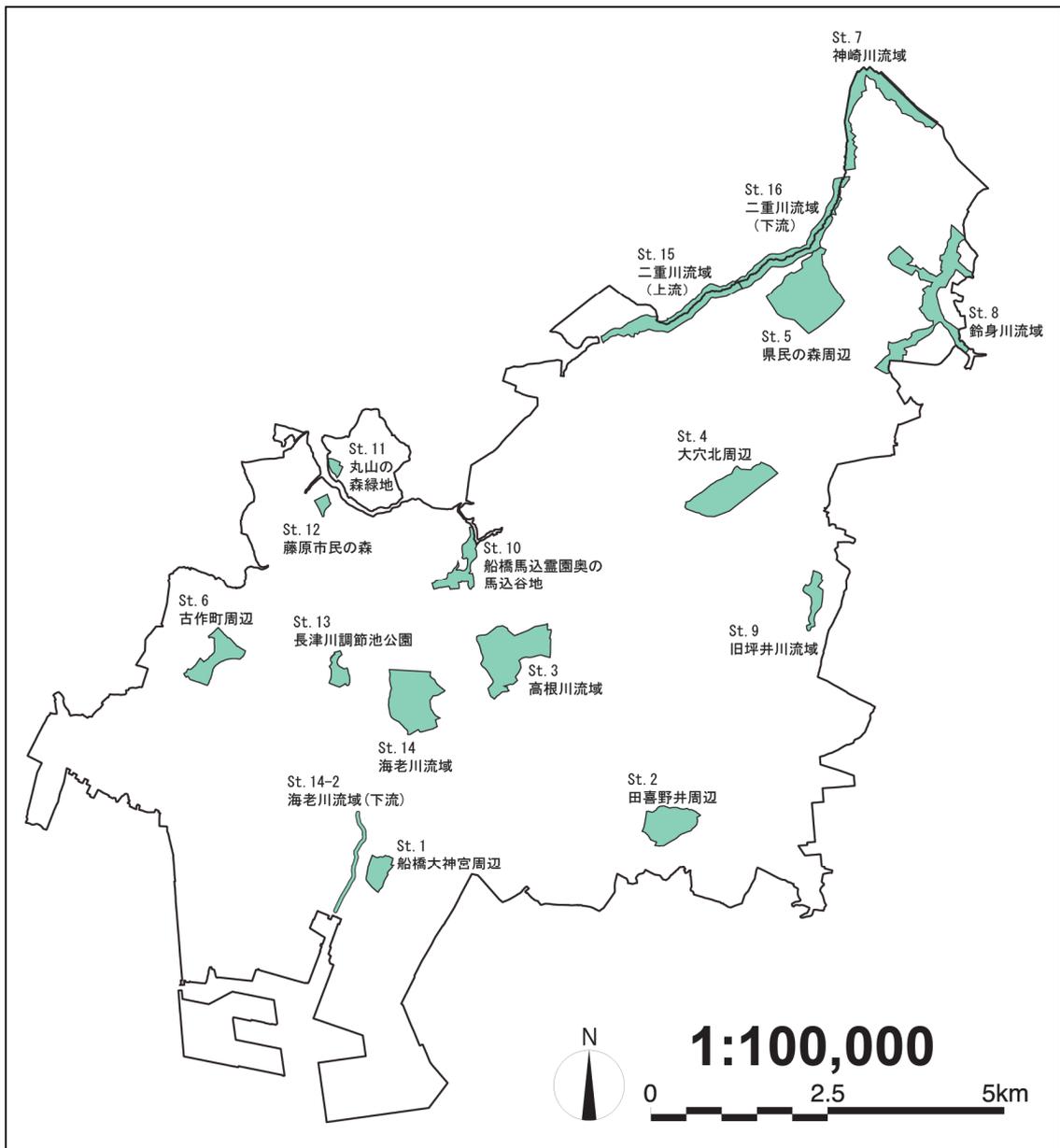
記号	地域名	区分	選定理由と特徴
St. 1	船橋大神宮周辺	社寺林	市街地に囲まれた社寺林
St. 2	田喜野井周辺	住宅地	古い住宅地で一部指定樹林を含む
St. 3	高根川流域	水田・湿地	水田及び休耕田
St. 4	大穴北周辺	斜面林	台地上の畑地、台地上の樹林
St. 5	県民の森周辺	平地林	大神保地域の平地
St. 6	古作町周辺	住宅地、樹林地他	中山競馬場と行田団地に挟まれた住宅地他
St. 7	神崎川流域	河川沿い湿地	市最北部に位置する水田及び休耕田
St. 8	鈴身川流域	河川沿い湿地	市最北部に位置する水田及び休耕田
St. 9	旧坪井川流域	湿地、斜面林	旧坪井川上流部、休耕田と斜面林
St. 10	船橋馬込霊園奥の馬込谷地	湿地、斜面林	金杉川源流部、台地に囲まれた谷地
St. 11	丸山の森緑地	樹林	住宅地に囲まれた緑地
St. 12	藤原市民の森	樹林	市民による管理が行われている
St. 13	長津川調節池公園	湿地、水辺	長津川中流部の調節池、台地に挟まれた谷地
St. 14	海老川流域	水辺、水田、畑地	農耕地に囲まれた谷地、市街地近くに 残された水田と畑地
St. 14-2	海老川流域（下流） ※鳥類調査のみ実施		
St. 15	二重川流域（上流）	水辺、水田、畑地他	水辺とその周囲の畑地、雑種地等
St. 16	二重川流域（下流）	水辺、水田、畑地他	河川改修された水辺と畑地等

※1:区分、選定理由と特徴は、前回調査結果より引用。

表 1-3 調査項目別の調査地域

調査項目		調査地域
植物 (水生植物含む)	植生の分布図	船橋市全域
	植生調査	全 16 地域
	植物相調査	
哺乳類	フィールドサイン調査	全 16 地域
	トラップ調査	
鳥類	定点調査	全 16 地域
	ラインセンサス調査	
両生類・爬虫類		全 16 地域
昆虫類	任意採取法	全 16 地域
	ベイトトラップ法	
魚類		St. 3、St. 7～St. 9、St. 13～St. 16※ ¹
底生動物		St. 3、St. 7～St. 9、St. 13～St. 16※ ¹
環境要素	環境要素全体	全 16 地域
	湧水	全 16 地域及びその近辺

※1: St. 5 及び St. 10 については、当初の調査予定はなかったが、春季・夏季に補足的に調査を実施した。



※1：St. 14-2 は鳥類調査のみ実施のため、鳥類調査の範囲を調査地域として示している。
 ※2：St. 15 二重川流域（上流）、St. 16 二重川流域（下流）には、白井市に該当する二重川左岸も調査範囲とした。

図 1-1 調査地域位置図

1.2.3 調査方法

1) 重要種の選定と公開について

重要種の選定は表 1-4 に示す選定基準に基づいて実施した。なお、盗掘・密猟のおそれがある一部の重要種が確認された調査地域の情報は非公開とした。

表 1-4 重要種選定基準

番号・略称	名称	記号	ランク区分
①天然記念物	文化財保護法 (昭和 25 年法律第 214 号 最終改正：平成 26 年 6 月 13 日法律第 69 号)	特天	国指定特別天然記念物
		天	国指定天然記念物
②種の保存法	絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律 (平成 4 年 6 月 5 日法律第 75 号 最終改正：平成 26 年 6 月 13 日法律第 69 号)	国内	国内希少野生動植物種
		国際	国際希少野生動植物種
③環境省 R L	環境省第 4 次レッドリスト (環境省、平成 24 年 8 月 28 日、第 4 次レッドリスト公表について (お知らせ)) (環境省、平成 25 年 2 月 1 日、第 4 次レッドリスト公表について(汽水・淡水魚類)(お知らせ))	EX	絶滅種
		EW	野生絶滅
		CR+EN	絶滅危惧 I 類
		CR	絶滅危惧 I A 類
		EN	絶滅危惧 I B 類
		VU	絶滅危惧 I I 類
		NT	準絶滅危惧
		DD	情報不足
④千葉県 R D B	「千葉県の保護上重要な野生動物 -千葉県レッドデータブック- 動物編」 (2011 年、千葉県環境生活部自然保護課) 「千葉県の保護上重要な野生動物 -千葉県レッドデータブック- 植物・菌類編」 (2009 年、千葉県環境生活部自然保護課)	X	消息不明・絶滅生物
		EW	野生絶滅生物
		A	最重要保護生物
		B	重要保護生物
		C	要保護生物
		D	一般保護生物
		RH	保護参考雑種
		DD	情報不足

2) 植物

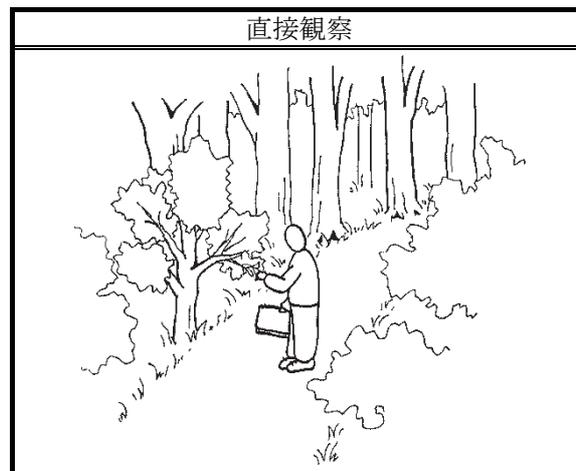
(1) 植生の分布図及び植生図の作成

植生の分布図は、前回調査で作成した植生の分布図(樹林地、果樹園、草地、畑地、水田、水面部)を基本として、船橋市または他機関が整備している航空写真や植生図などの既存の地理情報を活用し、1/25,000 程度の精度の図を作成した。なお、宅地の面積、割合については、平成 23 年度土地利用現況調査の地理情報を参考として記載した。

植生図は、環境省が公開している自然環境保全基礎調査・植生調査等の地理情報や空中写真を用いて予察を行い、現地踏査により植生の内容を確認し、作成した。植生の区分は、ケヤキ-シラカシ群落、クヌギ-コナラ群集など、前出の環境省植生調査に基づくものとした。

(2) 植物相調査

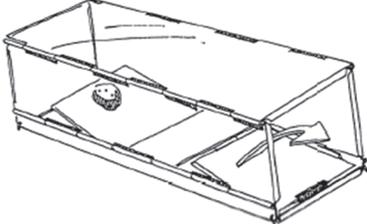
維管束植物以上の高等植物を対象に直接観察による調査を行い、確認された種を記録した。重要種等(表 1-4 参照)が確認された場合は、その位置及び確認状況を記録した。



3) 哺乳類

哺乳類を対象にフィールドサイン調査とトラップ調査を行い、確認された種と痕跡を記録した。重要種等（表 1-4 参照）が確認された場合は、その位置と確認状況を記録した。

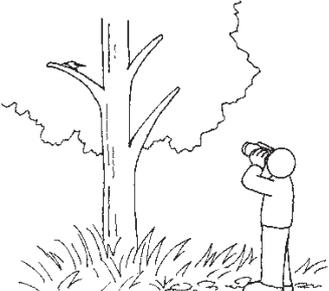
トラップの位置は、前回調査を参考にして、調査地域の哺乳類相を適切に把握できる地点を選定した。

フィールドサイン調査	トラップ調査
<p>調査地域を踏査し、生きている個体、死体、フィールドサイン(足跡、糞、食痕など)の確認によって、種を識別し、種名及び確認方法・状況等を記録した。</p> 	<p>ネズミ類など小型の哺乳類を確認する目的で、シャーマントラップを設置し、捕獲により確認した。捕獲した哺乳類については、種名、個体数、確認環境等を記録した後、放逐した。設置数は1地域あたり5～10個とした。</p> 

4) 鳥類

鳥類を対象に定点調査とラインセンサス調査を行い、確認された種や鳴声等を記録した。重要種等（表 1-4 参照）が確認された場合は、その位置と確認状況を記録した。

定点調査やラインセンサス調査の位置は、前回調査を参考にして、調査地域の鳥類相を適切に把握できる地点を選定した。

定点調査	ラインセンサス調査
<p>あらかじめ定めた定点において約30分間、双眼鏡（8～10倍程度）を用いた目視、及び鳴き声の確認により種を識別し、種名及び個体数を記録した。調査範囲は調査地域内で定点から視野が確保できる範囲とした。</p>	<p>あらかじめ定めた調査ルートを時速2km程度で歩行しながら、双眼鏡（8～10倍程度）を用いた目視、及び鳴き声の確認により種を識別し、種名及び個体数を記録した。調査範囲は片側25m程度とした。</p> 

5) 両生類・爬虫類

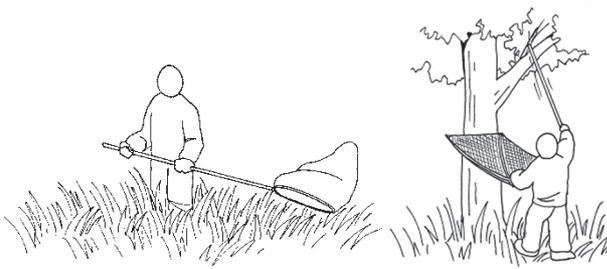
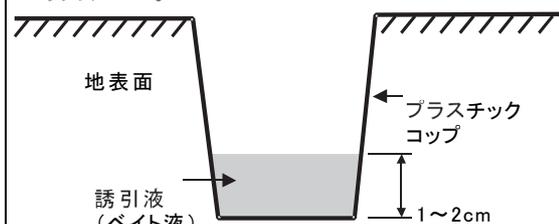
両生類及び爬虫類を対象に直接観察調査を行い、確認された種や痕跡を記録した。重要種等（表 1-4 参照）が確認された場合は、その位置及び確認状況を記録した。

直接観察調査
調査地域を踏査し、生きている個体、死体、抜け殻、鳴声等の確認によって、種を識別し、種名及び確認方法・状況等を記録した。

6) 昆虫類

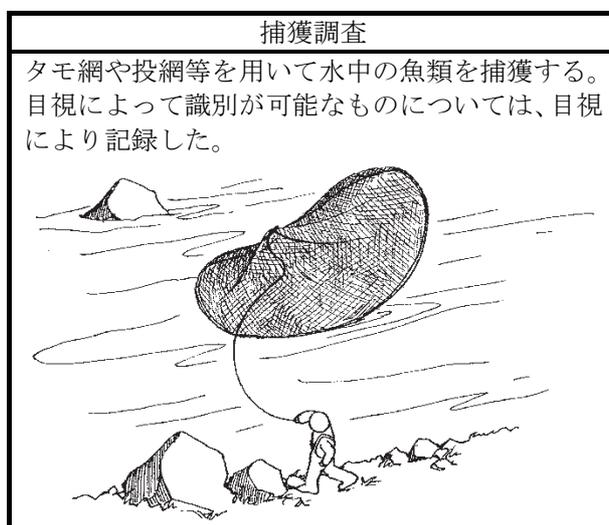
昆虫類を対象に任意採集法及びベイトトラップ法による調査を行い、確認された種を記録した。重要種等（表 1-4 参照）が確認された場合は、その位置及び確認状況を記録した。

ベイトトラップの位置は、前回調査を参考にして、調査地域の昆虫類相を適切に把握できる地点を選定した。

任意採集法	ベイトトラップ法
<p>調査地域を踏査し、発見した昆虫を捕虫網や手で直接採集した。また、捕虫網により樹木や草の葉をすくうスウィーピング法や、枝葉を叩いて落下する昆虫を採集するビーティング法も併用した。チョウやトンボ、甲虫の一部等目視によって識別が可能なものについては、目視により記録した。</p>	<p>餌を入れた容器（紙コップ、缶、瓶など）を、容器の縁が地表と同じ高さになるように埋め、餌を求めて集まる甲虫やアリなどの地上を歩き回る昆虫を落下させて採集する。餌は腐肉や砂糖水等を用いた。</p> <p>設置数は1地域あたり2箇所（1箇所あたりトラップ10個）を基本として、調査地域の面積や環境に応じて調整した。また、1地域1検体として分析した。</p>
 <p>【スウィーピング法】 【ビーティング法】</p>	 <p>地表面</p> <p>プラスチックコップ</p> <p>誘引液（ベイト液）</p> <p>1~2cm</p>

7) 魚類

魚類を対象にタモ網や投網等を用いて捕獲調査を行い、確認された種を記録した。重要種等（表 1-4 参照）が確認された場合は、その位置及び確認状況を記録した。



8) 底生動物

底生動物（水生昆虫類、貝類、甲殻類、環形動物）を対象にサーバーネットやDフレームネット等を用いて捕獲調査を行い、確認された種を記録した。重要種等（表 1-4 参照）が確認された場合は、その位置及び確認状況を記録した。



9) 環境要素

各調査地域の調査日の状況や周辺環境の状況等について記録を行った。湧水に依存する生物が見られる場合には、別途記録を行った。

1.3 三番瀬に関するとりまとめ

千葉県実施の三番瀬自然環境調査の結果から、ふなばし三番瀬海浜公園とその周辺の生物相について再整理を行った

調査結果は、現在確認できる最新の調査結果を用いた。

分類別に再整理を行った調査年度と引用した調査結果を表 1-5 に示す。

表 1-5 分類別引用調査結果

分類	調査年度	引用調査結果
鳥類	平成 25 年度	平成 25 年度 三番瀬鳥類個体数経年調査
魚類	平成 19 年度	平成 19 年度 三番瀬海生生物現況調査（魚類着底状況）
底生生物	平成 18 年度	平成 18 年度 三番瀬海生生物現況調査 （底生生物及び海域環境）

2. 調査結果の概要

2.1 植物

1) 植生の分布図

植生の分布図の作成結果は、図 2-1 に示す。

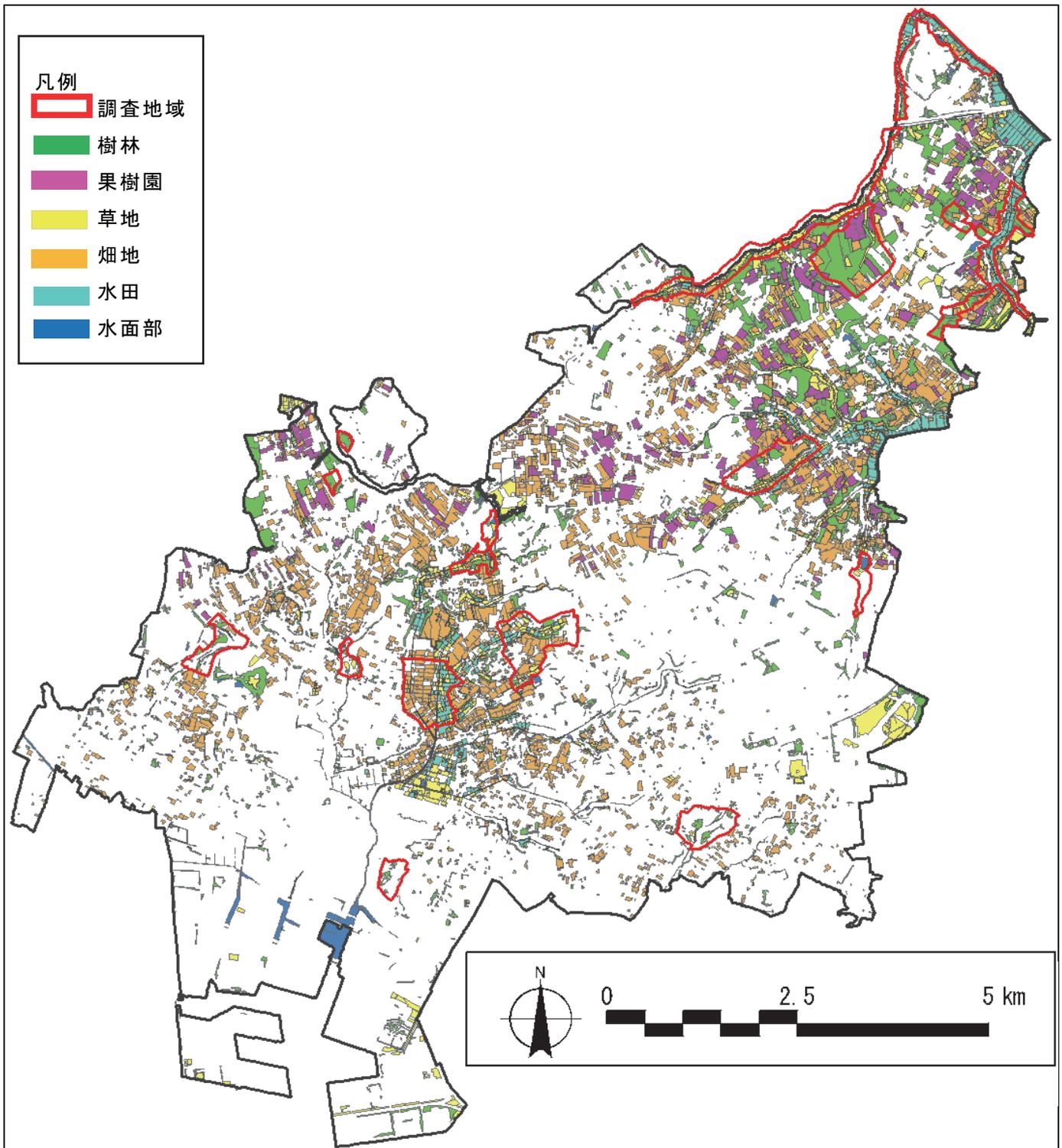


図 2-1 植生の分布図

2) 植物相

現地調査の結果、142科 885種の維管束植物以上の高等植物が確認された。確認種のうちコバノヒノキシダ、キンランなどの39種が重要種に該当する。現地調査で確認された植物885種のうち、外来種は204種であり、在来種◇は681種であった。帰化率◇は23.1%であった。

なお、特定外来生物◇に該当する種は、アレチウリ、ナガエツルノゲイトウなどの5種、要注外来生物◇に該当する種は、ハリエンジュ、アメリカセンダングサなどの41種が確認された。

河道内や河道周辺及び谷部の湿性環境では、ヨシ、ツルヨシ、オギ、カサスゲ、ハンノキなどの湿性植物が確認され、水田及び農業水路周辺の湿地環境では、セリ、イ、イヌビエ、ヨシなどの湿性植物が確認された。耕作されなくなって間もない水田では、アゼナ、ハンゲショウ、タネツケバナ、イ、コウガイゼキショウ、コナギなどの湿性植物が多く確認された。

畑地では、シロザ、ウシハコベ、ナズナ、コニシキソウなどの好窒素性の畑地雑草が確認された。

河岸段丘崖◇や平地では、植林由来のスギ、ヒノキや北総台地の代償植生◇であるクヌギ-コナラ群集やムクノキ-エノキ群集が多く確認された。クヌギ-コナラ群集などの二次林◇では、高木層をコナラ、クヌギ、イヌシデなどが占め、亜高木層をコブシ、低木層にムラサキシキブ、アズマネザサ、アオキ、草本層にナガバジャノヒゲ、キツタなどが確認された。特にクヌギ-コナラ群集では、キンラン、コ克蘭、ジュウニヒトエなどの明るい樹林に生育する草本類が確認された。また、これらに加え本来の自然植生である常緑樹林を構成するシラカシ、ヤブツバキ、ヒサカキなどの常緑樹も多く確認された。スギ・ヒノキ・サワラ植林では、高木層にスギ、ヒノキなどが生育し、亜高木層・低木層にムクノキ、シラカシ、ヒサカキ、草本層にドクダミ、キツタなどが確認された。また、人家の裏の河岸段丘崖は、植林由来のモウソウチク、マダケの竹林が多く見られた。

林縁部では、クサギ、アカメガシワ、タラノキ、ハリギリなどの主に明るい環境で生育する樹木が多く確認された。平地部の公園や社寺林では、クヌギ-コナラ群集、ムクノキ-エノキ群集、スギ-ヒノキ植林が分布する地域が多かった。

市街地周辺では、オオイヌノフグリ、ウラジロチチコグサ、ヨモギなどの踏圧に強い路傍雑草やマルバハッカ、ハナニラなどの逸出種◇が確認された。

前回調査結果と比較すると、St.1 船橋大神宮周辺では、草地・路傍に生育する重要種であるコバノタツナミ等が確認されなかった。船橋大神宮周辺では大規模な土地利用の変化は見られないが、船橋大神宮内では除草管理がされており、草地がほとんど見られなかった。このため、St.1 では大規模な改変はないものの、緑地内の管理方法に伴う環境の変化が起きたと推察される。

St.3 高根川流域では、湿地、水路などに生育する湿生植物の重要種が確認されなかった。耕作していない水田が増加した影響の他、除草剤による影響の可能性が推察される。

St.4 大穴北周辺では、主に日当たりの良い半自然草地◇で見られる重要種であるヒキヨモギが確認されなかった。調査地域は前回調査時から耕作していない農地が多く、オギなどの高茎草本群落◇に遷移◇が進み、消失したと推察される。

St.9 旧坪井川流域などでは、ジュウニヒトエなどの明るい樹林で生育する重要種や草地に生育する重要種などが確認されなかった。これらの地域では、宅地化、公園化が進み、これらの生息地が減少したものと推察される。

また、いくつかの地域では、キンラン、ギンランなどのラン類が確認されず、盗掘などによる影響の可能性も推察される。

確認された重要種を表 2-1 に示す。

表 2-1 確認された重要種（植物）

No.	分類	科名	種名	選定基準				非公開
				①	②	③	④	
1	シダ植物	マツバラシ	マツバラシ			NT	A	○
2		ミズニラ	ミズニラ			NT		○
3		チャセンシダ	コバノヒノキシダ				D	
4		オシダ	オシダ				C	○
5	離弁花	クルミ	オニグルミ				D	
6		カバノキ	クマシデ				D	
7			アカシデ				D	
8			ハシバミ				D	
9		キンポウゲ	カザグルマ			NT	B	○
10			セリバオウレン				C	○
11		メギ	イカリソウ				D	○
12		センリョウ	センリョウ◆				C	○
13		ケシ	ヤマブキノソウ				B	○
14		ユキノシタ	ヤブサンザシ				B	○
15			イワガラミ				C	○
16		モチノキ	ウメモドキ				C	○
17		ホルトノキ	ホルトノキ				D	
18		アカバナ	ウスゲチョウジタデ			NT		
19	合弁花	アカネ	ヤブムグラ			VU	B	○
20		クマツヅラ	コムラサキ◆				B	○
21		シソ	ジュウニヒトエ				D	
22			ヒメナミキ				D	
23			コバノタツナミ				D	
24		ゴマノハグサ	カワヂシャ			NT		
25	単子葉	ヒルムシロ	ササバモ				D	
26		ユリ	カタクリ				B	○
27			アマナ				C	○
28		イネ	セイタカヨシ				C	○
29		ミクリ	ミクリ			NT	C	○
—			ミクリ属の一種			*	*	○
30		カヤツリグサ	オニスゲ				D	
31			ヤブスゲ				B	○
32			オオアゼテンツキ				C	○
33		ラン	エビネ			NT	D	○
34			ギンラン				C	○
35			キンラン			VU	D	○
36			ササバギンラン				C	○
37			クゲヌマラン			VU	B	○
38			タシロラン			NT	C	○
39	コクラン					D	○	
計		24科	39種	0種	0種	11種	36種	26種

※1：種名、科名の配列等は、主に「植物目録 1987」（1987年、環境庁）に従った。

※2：重要種の選定基準は表 1-4 参照。

※3：◆の今回確認されたセンリョウは逸出個体である可能性が考えられる。コムラサキについてはハンノキ林で確認されたもの以外は逸出個体である可能性が高く、ハンノキ林で確認されたものについても逸出個体の可能性が考えられる。

※4：*ミクリ属の一種は、「千葉県自然誌」によると県内には、オオミクリ、ナガエミクリ、ヒメミクリ、ヤマトミクリ、ミクリの5種あるとされる。種ごとの重要種カテゴリーは以下の通り。

※5：非公開種については、確認された調査地域に関する情報については非公開とした。

種名	選定基準	
	第4次レッドリスト	千葉県レッドデータブック
オオミクリ	VU	A
ヒメミクリ	VU	A
ナガエミクリ	NT	A
ヤマトミクリ	NT	A
ミクリ	NT	C

2.2 哺乳類

現地調査の結果、5目8科11種の哺乳類が確認された。

確認種のうち、ジネズミ及びカヤネズミの2種が重要種に該当する。特定外来生物と要注意外来生物に該当する種の確認はなかった。

確認種は、アカネズミ、タヌキ、イタチなどの平野部から丘陵地、低山地に広く生息する小型～中型哺乳類であった。

河川沿いや樹林、耕作地等が分布する比較的自然が残された地域では、イタチ、ノウサギなど比較的多くの種が見られた。河川沿いなどに分布するオギ群落やヨシクラス◇などの高茎草本群落では、カヤネズミが確認された。

一方で、市街地に囲まれた規模の小さい緑地・社寺林では、アズマモグラ、ヒナコウモリ科の一種などの限られた種が確認された。

前回調査結果と比較すると、カヤネズミが確認されなくなった地域があった。St.9 旧坪井川流域では、調査地域の大部分が宅地化、公園化されたため、カヤネズミが営巣に利用するヨシ原や高茎草本群落などの生息地が激減したものと推察される。

確認された重要種を表 2-2 に示す。

表 2-2 確認された重要種（哺乳類）

No.	目名	科名	種名	選定基準				非公開
				①	②	③	④	
1	モグラ	トガリネズミ	ジネズミ				D	
2	ネズミ	ネズミ	カヤネズミ				D	
計	2目	2科	2種	0種	0種	0種	2種	0種

※1：種名、科名の配列等は、主に「種の多様性調査(動物分布調査)対象種一覧」(2002年、環境省)に従った。

※2：重要種の選定基準は表 1-4 参照。

※3：非公開種については、市内で見つかったことについては示すが、確認された調査地域に関する情報については非公開とした。

2.3 鳥類

現地調査の結果、14目33科80種の鳥類が確認された。

確認種のうち、スズガモ、ダイサギ、オオバン、オオタカ、イワツバメ、キビタキ、ホオジロなど34種が重要種に該当する。特定外来生物と要注意外来生物に該当する種の確認はなかったが、その他の外来種は2種確認された。

確認種は、主に市街地から低山の樹林や河川周辺に生息する種が中心であった。

樹林では、ウグイス、キジバト、シジュウカラ、コゲラ、ツミ、カケス、アオゲラ、キビタキ、トラツグミなどの主に樹林で見られる種が確認され、畑地、草地では、カワラヒワ、キジ、ヒバリ、ムクドリ、モズ、タヒバリ、ホオジロなどの畑地、草地で採餌・繁殖を行う種が確認された。

水田等の耕作地では、ダイサギ、コサギ、アオサギなどや、低茎草本群落◇で繁殖するセッカなども確認され、河川や調節池などの水域では、ヒドリガモ、カルガモ、カワウ、カワセミ、イソシギなどの水鳥が確認された。

市街化が進んだ住宅地周辺では、ヒヨドリ、スズメ、オナガ、ハシブトガラスなどの都市鳥といわれる種が多く確認された。

前回調査結果と比較すると、St.6古作町周辺では、カイツブリ、バンなどの止水水域◇を利用する重要種は確認されなかった。本地域では、ため池が宅地に改変されたことから、これらの生息地が消失したものと推察される。

St.7神崎川流域では、水田、耕作していない水田、湿地などで採餌を行うチュウサギが確認されなかった。調査地域は前回調査時から耕作していない農地が多く、オギなどの高茎草本群落に遷移が進み、チュウサギの採餌を行う環境が減少したと推察される。

St.9旧坪井川流域では、オオヨシキリなど高茎草本群落で営巣を行なう重要種は確認されなかった。本地域では大部分が宅地化、公園化されたため、オオヨシキリが営巣に利用するヨシ原や草地などの生息地が激減したものと推察される。

確認された重要種を表2-3に示す。

表 2-3 確認された重要種（鳥類）

NO.	目名	科名	種名	選定基準				非公開	
				①	②	③	④		
1	カモ	カモ	スズガモ				D		
2			ホオジロガモ				B		
3	カイツブリ	カイツブリ	カイツブリ				C		
4	カツオドリ	ウ	カワウ				D		
5	ペリカン	サギ	ダイサギ				C		
6			コサギ				C		
7	ツル	クイナ	バン				B		
8			オオバン				C		
9	カッコウ	カッコウ	ホトトギス				C		
10	チドリ	チドリ	コチドリ				B		
11			シギ	クサシギ				D	
12				イソシギ				A	
13	タカ	タカ	ツミ				C		
14			オオタカ		国内	NT	B		
15			ノスリ				C		
16	ブッポウソウ	カワセミ	カワセミ				C		
17	キツツキ	キツツキ	アオゲラ				C		
18	ハヤブサ	ハヤブサ	ハヤブサ		国内	VU	B		
19	スズメ	カラス	カケス				C		
20		ヒバリ	ヒバリ				D		
21		ツバメ	ツバメ	ツバメ				D	
22				イワツバメ				D	
23		ヨシキリ	オオヨシキリ				D		
24		セッカ	セッカ				D		
25		ミソサザイ	ミソサザイ				C		
26		ヒタキ	ヒタキ	トラツグミ				A	
27				イソヒヨドリ				C	
28				キビタキ				A	
29				オオルリ				B	
30		セキレイ	セキレイ	セキレイ				B	
31		アトリ	アトリ	イカル				D	
32		ホオジロ	ホオジロ	ホオジロ				C	
33				クロジ				D	
34				オオジュリン				D	
計	12 目	22 科	34 種	0 種	2 種	2 種	34 種	0 種	

※1：種名、科名の配列等は、主に「日本鳥類目録 改訂第7版」（2012年、日本鳥学会）に従った。

※2：重要種の選定基準は表 1-4 参照。

※3：非公開種については、確認された調査地域に関する情報については非公開とした。

2.4 両生類・爬虫類

現地調査の結果、両生類 1 目 4 科 6 種、爬虫類 2 目 8 科 13 種が確認された。確認種のうち、両生類ではニホンアマガエル、ウシガエルを除く 4 種が重要種に該当する。爬虫類ではミシシippアカミミガメを除く 12 種が重要種に該当する。特定外来生物に該当する種は、ウシガエルの 1 種、要注意外来生物に該当する種は、ミシシippアカミミガメの 1 種が確認された。

確認種は、主に平野部の河川、水田や畑等の耕作地、それら周辺の草地や樹林に生息する種が中心であった。

河川や調節池等の水域では、ミシシippアカミミガメ、クサガメ、ニホンイシガメ、ニホンスッポンなどのカメ類、ウシガエルなどが確認され、水田などの耕作地周辺では、ニホンアマガエル、トウキョウダルマガエルなどのカエル類や、それらを捕食するヤマカガシ、ヒバカリなどのヘビ類が確認された。春先には、湿地や水溜りで、アズマヒキガエル、ニホンアカガエルの幼生も確認された。

また、河川や耕作地周辺に斜面林などの樹林が分布している環境では、確認例は少ないが、ジムグリ、ニホンマムシなどの樹林で見られることが多い種も確認された。

市街化が進んだ住宅地周辺での確認種は少なかったが、人家やその周辺を主な生息環境とするニホンヤモリが確認された。

前回調査結果と比較すると、St.6 古作町周辺では、アズマヒキガエルなどの止水域を利用する重要種は確認されなかった。本地域では、ため池が宅地に改変されたことから、生息地が消失したものと推察される。

確認された重要種を表 2-4、表 2-5 に示す。

表 2-4 確認された重要種（両生類）

No.	目名	科名	種名	選定基準				非公開
				①	②	③	④	
1	無尾	ヒキガエル	アズマヒキガエル				C	
2		アカガエル	トウキョウダルマガエル			NT	B	
3			ニホンアカガエル				A	
4		アオガエル	シュレーゲルアオガエル				D	
計	1 目	3 科	4 種	0 種	0 種	1 種	4 種	0 種

※1：種名、科の配列等は、主に「爬虫類両生類学会目録 改訂版」（2012年、日本爬虫両棲類学会）に従った。

※2：重要種の選定基準は表1-4参照。

※3：非公開種については、確認された調査地域に関する情報については非公開とした。

表 2-5 確認された重要種（爬虫類）

No.	目名	科名	種名	選定基準				非公開
				①	②	③	④	
1	カメ	イシガメ	クサガメ				DD	
2			ニホンイシガメ			NT	A	
3		スッポン	ニホンスッポン			DD	DD	
4	有鱗	ヤモリ	ニホンヤモリ				D	
5		トカゲ	ヒガシニホントカゲ				B	
6		カナヘビ	ニホンカナヘビ				D	
7		ナミヘビ	ジムグリ				B	
8			アオダイショウ				D	
9			シマヘビ				C	
10			ヒバカリ				D	
11			ヤマカガシ				D	
12		クサリヘビ	ニホンマムシ				B	
計		2 目	7 科	12 種	0 種	0 種	2 種	12 種

※1：種名、科の配列等は、主に「爬虫類両生類学会目録 改訂版」（2012年、日本爬虫両棲類学会）に従った。

※2：重要種の選定基準は表1-4参照。

※3：非公開種については、確認された調査地域に関する情報については非公開とした。

2.5 昆虫類

現地調査の結果、15目177科857種の昆虫類が確認された。

確認種のうち、キイロサナエ、アオヤンマ、ヨコズナツチカメムシ、コハンミョウ、オオサカアオゴミムシ、ウマノオバチ、ミドリシジミなど37種が重要種に該当した。なお、特定外来生物に該当する種の確認はなかった。要注意外来生物としては、アカボシゴマダラが確認された。

確認種は、低地の耕作地や谷津の湿地、二次林などに主に生息する種が中心であった。

耕作地周辺や公園内に多く見られた草地では、トノサマバッタ、ナガメ、ベニシジミなどが多く確認された。谷津の耕作していない水田などに見られるヨシやスゲ類が生育する湿生草地では、ヤチスズ、ジュウサンホシテントウ、スゲハムシなどが確認された。

トンボ類、アメンボ類などの水生昆虫も多く確認されたが、チョウトンボ、タイコウチ、ハイイロゲンゴロウなど、その多くは、水田やため池などの主に止水域で見られる種であった。一方で、流水域に生息する種は止水域に生息する種に比べて少なく、ハグロトンボ、シマアメンボなどが確認された。

コナラ-クヌギ群集などの二次林では、クチキムシ、ウスバカミキリ、ヒカゲチョウなど多くの樹林に生息する種が確認された。ヒメハサミツノカメムシ、ナガヒラタムシ、クロスズメバチなど、平地には少なく主に山地・丘陵地に生息する種も少数ではあるが確認された。樹液の出るクヌギやヤナギ類が生育している樹林では、ノコギリクワガタ、クロカナブン、コシロシタバなどの樹液食の種が確認された。シイ・カシ類などからなる常緑広葉樹林においては、ヨコズナツチカメムシ、フタオビミドリトラカミキリ、ムラサキツバメなど暖地性の種も確認された。スギ・ヒノキ・サワラ植林では、チャバネアオカメムシ、ヒメスギカミキリなどが確認されたが、広葉樹林に比べ確認種は少なかった。

市街地では確認種は少なかったが、カネタタキ、アブラゼミ、ナミアゲハなどの庭園や街路樹などでも生息できる種が確認された。

確認された重要種を表2-6に示す。

表 2-6 確認された重要種（昆虫類）

No.	目名	科名	種名	選定基準				非公開
				①	②	③	④	
1	トンボ	イトトンボ	ホソミイトトンボ				A	
2			ムスジイトトンボ				B	
3		サナエトンボ	キイロサナエ			NT	B	○
4			ウチワヤンマ				D	
5		ヤンマ	アオヤンマ			NT	B	
6			クロスジギンヤンマ				D	
7			カトリヤンマ				B	○
8			ヤブヤンマ				D	
9		トンボ	ハラビロトンボ				B	
10			チョウトンボ				D	
11	カメムシ	コオイムシ	コオイムシ			NT		
12		ナガカメムシ	ヒメマダラナガカメムシ				D	
13			ヒメジュウジナガカメムシ				D	
14		ツチカメムシ	ヨコヅナツチカメムシ				C	
15		カメムシ	ルリクチブトカメムシ				D	
16	コウチュウ	ハンミョウ	コハンミョウ				D	
17		オサムシ	ヒメマイマイカブリ				C	
18			オオサカアオゴミムシ			DD		
19		ゲンゴロウ	マルガタゲンゴロウ			VU	B	○
20		ミズスマシ	オオミズスマシ			NT	C	○
21			コガムシ			DD	D	
22		ナガハナノミ	ヒゲナガハナノミ				D	
23		タマムシ	ヤマトタマムシ				D	
24		ホタル	ヘイケボタル				C	
25		ハムシ	キアシネクイハムシ				C	
26			スゲハムシ				B	
27	ヒゲナガゾウムシ	エゴヒゲナガゾウムシ				C		
28	ハチ	コマユバチ	ウマノオバチ			NT	C	
29		ハキリバチ	クズハキリバチ			DD		
30	ハエ	ハナアブ	キヒゲアシブトハナアブ				B	
31	チョウ	セセリチョウ	ギンイチモンジセセリ			NT	D	
32			ミヤマチャバネセセリ				C	
33		シジミチョウ	ミドリシジミ				C	
34		マダラチョウ	アサギマダラ				D	
35		タテハチョウ	コムラサキ				C	
36		ヤガ	コシロシタバ			NT	D	
37			キシタアツバ			NT		
計	6 目	25 科	37 種	0 種	0 種	12 種	33 種	4 種

※1: 種名、科名の配列等は、主に「日本産野生生物目録 - 本邦産野生動植物の種の現状 - 無脊椎動物編 II」(1995年、環境庁)に従った。

※2: 重要種の選定基準は表 1-4 参照。

※3: 非公開種については、確認された調査地域に関する情報については非公開とした。

2.6 魚類

現地調査の結果、8目12科29種の魚類が確認された。

確認種のうち、スナヤツメ類、ニホンウナギ、ホトケドジョウなど10種が重要種に該当する。特定外来生物に該当する種は、カダヤシ、ブルーギル、オオクチバスの3種、要注意外来生物に該当する種は、タイリクバラタナゴ、カムルチーの2種が確認された。

確認種は、河川の中下流域に生息する種が中心であり、そのほか、主に河口域に生息するボラ、アシシロハゼ、水の澄んだ流れの緩やかな細流に生息するスナヤツメ類やホトケドジョウが確認された。また、一部の河川では、ウグイ、アユ、ウナギなど回遊性の魚類も確認された。

確認された重要種を表2-7に示す。

表2-7 確認された重要種（魚類）

No.	目名	科名	種名	選定基準				非公開
				①	②	③	④	
1	ヤツメウナギ	ヤツメウナギ	スナヤツメ類			VU	A	○
2	ウナギ	ウナギ	ニホンウナギ			EN		
3	コイ	コイ	ギンブナ				D	
4			モツゴ				D	
5			ニゴイ				C	○
6		ドジョウ	ドジョウ			DD		
7			ホトケドジョウ			EN	C	○
8	ナマズ	ナマズ	ナマズ				B	○
9	ダツ	メダカ	メダカ南日本集団			VU	B	○
10	スズキ	ハゼ	ヌマチチブ				D	
計	6目	7科	10種	0種	0種	5種	8種	5種

※1：種名、科名の配列等は、主に「河川水辺の国勢調査 最新版 平成24年度版生物リスト」（2012年、公益財団法人リバーフロント研究所）に従った。

※2：重要種の選定基準は表1-4参照。

※3：非公開種については、確認された調査地域に関する情報については非公開とした。

2.7 底生動物

現地調査の結果、26目73科150種の底生動物が確認された。

確認種のうち、マルタニシ、マルガタゲンゴロウ、マダラコガシラミズムシなど18種が重要種に該当する。特定外来生物に該当する種は確認されず、要注意外来生物に該当する種は、アメリカザリガニが確認された。

確認種は、河川の中下流域に生息する種や、水田や湿地に生息する種が中心であり、そのほか、里山の細流などに生息するサワガニ、シマアメンボなども確認された。また、一部の河川では、テナガエビ、ミズレヌマエビなど海と河川を回遊する種も確認された。

なお、要注意外来生物のアメリカザリガニは全地点で確認されており個体数も多かった。

確認された重要種を表2-8に示す。

表2-8 確認された重要種（底生動物）

No.	門名	綱名	目名	科名	種名	選定基準				非公開		
						①	②	③	④			
1	軟体動物	腹足	原始紐舌	タニシ	マルタニシ			VU	D			
2		二枚貝	イシガイ	イシガイ	イシガイ				D			
3	節足動物	軟甲	エビ	ヌマエビ	ミズレヌマエビ				A	○		
4				テナガエビ	テナガエビ				D			
5				スジエビ					D			
6				サワガニ	サワガニ				C	○		
7				モクズガニ	モクズガニ				D			
8				昆虫	トンボ (蜻蛉)	イトトンボ	セスジイトトンボ				C	○
9						ヤンマ	カトリヤンマ				B	○
10		サナエトンボ	キイロサナエ					NT	B	○		
11	ホンサナエ							B	○			
12	ウチワヤンマ							D				
13		カメムシ (半翅)	コオイムシ	コオイムシ			NT					
14	コウチュウ (鞘翅)	ゲンゴロウ	マルガタゲンゴロウ			VU	B	○				
15		ミズスマシ	オオミズスマシ			NT	C	○				
16		コガシラミズムシ	マダラコガシラミズムシ			VU	B	○				
17		ガムシ	コガムシ			DD	D					
18		イネゾウムシ	ウキクサミズゾウムシ				B	○				
計	2門	4綱	6目	15科	18種	0種	0種	7種	17種	10種		

※1：種名、科名の配列等は、主に「河川水辺の国勢調査 最新版 平成24年度版生物リスト」（2012年、公益財団法人リバーフロント研究所）に従った。

※2：重要種の選定基準は表1-4参照。

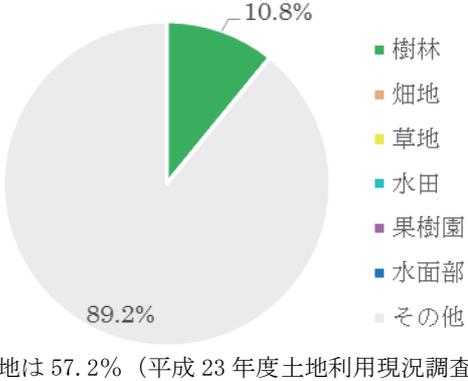
※3：非公開種については、確認された調査地域に関する情報については非公開とした。

3. 各調査地域の特徴

調査結果を元に、各調査地域の特徴をとりまとめ、表 3-1～3-17 に示す。

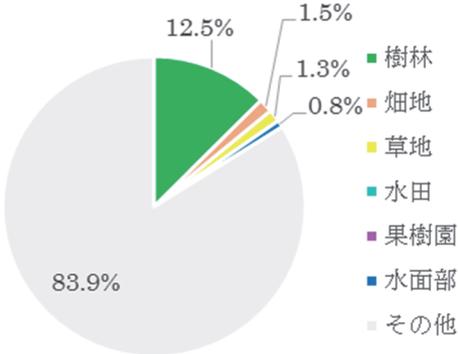
3.1 St.1 船橋大神宮周辺

表 3-1 St.1 船橋大神宮周辺

調査地域	St.1 船橋大神宮周辺	
写真	 <p data-bbox="549 752 687 779">船橋大神宮</p>	 <p data-bbox="1147 752 1235 779">社寺林</p>
土地利用状況	<div data-bbox="336 786 962 1234">  <p data-bbox="549 1200 746 1227">植生の分布状況</p> </div> <div data-bbox="967 786 1476 1234"> <p data-bbox="975 943 1460 1077">船橋市の南部に位置し、調査地域の多くは市街地であり、船橋大神宮や西福寺の中に樹林が点在する。その他の植生は、ほとんど存在しない。</p> </div>	
環境の特徴	<p data-bbox="344 1240 1452 1375">船橋大神宮には、管理されているスギ・ヒノキ植林やスダジイを主体としたまとまった常緑広葉樹林が存在し、主にスダジイなどで見られる昆虫のヨコヅナツチカメムシが確認された。また、石材が多いためイノモトソウ、コバノヒノキシダといった庭石に着生する植物も確認された。</p> <p data-bbox="344 1382 1452 1487">水域はほとんどなく、小規模な池のみであった。そのため、トンボ類などの水生昆虫や、湿地に生息する昆虫類は確認されなかったが、アズマヒキガエルの幼生が多数確認された。</p> <p data-bbox="344 1494 1452 1561">調査地域の多くは市街地で、植物、哺乳類、昆虫類においてもっとも確認種が少ない地域であった。</p> <p data-bbox="344 1599 1452 1733">今回の調査では、前回調査で確認されたコバノタツナミなどの草地・路傍に生育する重要種が確認されなかった。今回の調査において、船橋大神宮は除草管理がされており、草地がほとんど見られなかった。このことから、緑地内の管理方法の変化に伴う環境の変化が起きたと推察される。</p>	
確認種	<p data-bbox="344 1749 1054 1778">植 物：179 種（うち重要種 2 種：コバノヒノキシダ等）</p> <p data-bbox="344 1785 775 1814">哺乳類：1 種（重要種の確認なし）</p> <p data-bbox="344 1821 986 1850">鳥 類：14 種（うち重要種 2 種：カワウ、ツバメ）</p> <p data-bbox="344 1856 999 1886">両生類：1 種（うち重要種 1 種：アズマヒキガエル）</p> <p data-bbox="344 1892 943 1921">爬虫類：1 種（うち重要種 1 種：ニホンヤモリ）</p> <p data-bbox="344 1928 1310 1957">昆虫類：105 種（うち重要種 2 種：ヨコヅナツチカメムシ、クズハキリバチ）</p>	
特定外来生物	未確認	

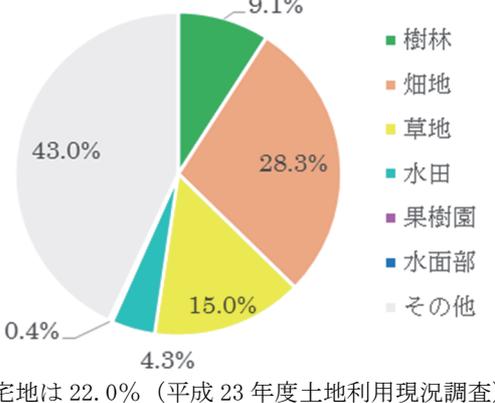
3.2 St. 2 田喜野井周辺

表 3-2 St. 2 田喜野井周辺

調査地域	St.2 田喜野井周辺	
写真		
土地利用状況	 <p>宅地は 53.2% (平成 23 年度土地利用現況調査)</p>	<p>船橋市の南東部に位置し、調査地域の多くは住宅地として利用されており、その中に田喜野井公園などに樹林が点在する。その他、わずかながら畑地や草地なども見られ、水面部としては田喜野井川と調節池が存在する。</p>
環境の特徴	<p>植生の分布状況</p> <p>樹林は、田喜野井公園及び津田沼グリーンハイツ周辺にクヌギ-コナラ群集がまとまって存在しており、ムクノキ-エノキ群集、ケヤキ-シラカシ群落、竹林が点在している。ムクノキ-エノキ群集、ケヤキ-シラカシ群落では、コナラ、イヌシデ、シロダモ、ヤブツバキなどの植物が多く確認された。竹林ではマダケ、モウソウチクが密生しており、林床にはほとんど植物が確認されなかった。</p> <p>田喜野井川は、三面コンクリート張りで、多くの区間で暗渠となっている。また、調査地域の南部にある調節池も、通常時は水がたまっているのはごく一部で、カワヂシャやヨシなどの湿生植物は確認されたものの、カモ類などの水鳥、両生類、トンボ類などの水生昆虫や、湿地に生息する昆虫類は確認されなかった。</p> <p>湿地は、南部にある三面コンクリート張りの調節池の一部に水がたまった状態で存在しており、そこではカワヂシャ、ヨシなどの湿性植物が確認された。</p>	
確認種	<p>植 物：299 種（うち重要種 5 種：クマシデ、カワヂシャ等） 哺乳類：4 種（重要種の確認なし） 鳥 類：20 種（うち重要種 2 種：ツミ、ツバメ） 両生類：確認なし（重要種の確認なし） 爬虫類：3 種（うち重要種 3 種：ニホンヤモリ、ヒガシニホントカゲ、ニホンカナヘビ） 昆虫類：146 種（うち重要種 1 種：エゴヒゲナガゾウムシ）</p>	
特定外来生物	<p>オオキンケイギク</p>	

3.3 St. 3 高根川流域

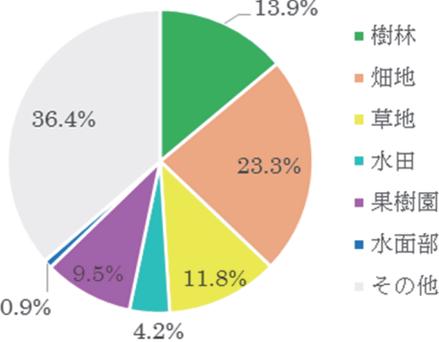
表 3-3 St. 3 高根川流域

調査地域	St.3 高根川流域	
写真		
土地利用状況	<div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="flex: 1;">  <p>宅地は 22.0% (平成 23 年度土地利用現況調査)</p> </div> <div style="flex: 1; padding-left: 20px;"> <p>船橋市の中央部に位置し、高根川、宮前川をそれぞれ中心とした低い河岸段丘面◇、河岸段丘崖及び一段高い河岸段丘面となっている。低い河岸段丘面は、主に水田、ヨシ原、耕作していない水田などの湿性環境となっているほか、畑地、造成地となっており、河岸段丘崖は樹林や竹林に、一段高い段丘面は住宅地、畑地となっている。</p> </div> </div>	
環境の特徴	<p style="text-align: center;">植生の分布状況</p> <p>低い河岸段丘面を流れる高根川は、川幅は 1m 程度、水深は 30～100 cm 程度、両岸はコンクリートブロック護岸であり、下流は矢板護岸◇となっている。河川の周囲には水田が広がっているが、水田と河川の間には落差があり、連続性に乏しい。河床は泥や砂泥で水はやや洗剤臭があり、エラミミズ、フロリダマミズヨコエビなどの比較的汚濁に強い底生動物が確認された。</p> <p>高根川周辺の水田、ヨシ原の湿性環境では、イヌビエ、アメリカセンダングサ、アゼナなどの水田雑草やマルタニシ、コオイムシなどの底生動物が確認され、一部では、重要種のウスゲチョウジタデ、カワヂシャが確認された。</p> <p>河岸段丘崖は主にクヌギ-コナラ群集、竹林、ムクノキ-エノキ群集などの樹林となっており、ヒサカキ、シロダモ、ヤブニッケイなどの植物が見られた。また、下草刈りなどの管理はほぼされておらず、林床にはアズマネザサが繁茂していた。</p> <p>一段高い段丘面にある畑地では、スギナ、ミチヤナギ、シロザなどの畑地雑草やヒバリなどの鳥類が確認された。</p> <p>今回の調査では、前回調査で確認されたジュウニヒトエなどの明るい樹林や林縁に生育する重要種は確認されなかった。本地域では、調査地域の東部などで宅地化が進み、草地や樹林が減少していることから、これらの生育地が減少したものと推察される。</p> <p>また、湿地、水路などに生育する湿生植物の重要種が確認されなかった。この原因としては、耕作していない水田が増加した影響の他、除草剤による影響の可能性が推察される。</p>	

調査地域	St.3 高根川流域
確認種	植 物：404 種(うち重要種 4 種：アカシデ、ウスゲチョウジタデ、カワヂシャ等) 哺乳類：5 種(重要種の確認なし) 鳥 類：33 種(うち重要種 8 種：カワウ、コチドリ、オオタカ、ハヤブサ、ヒバリ等) 両生類：1 種(重要種の確認なし) 爬虫類：3 種(うち重要種 3 種：ニホンヤモリ、ニホンカナヘビ、アオダイショウ) 昆虫類：238 種(うち重要種 4 種：ヤマトタマムシ、キアシネクイハムシ等) 魚 類：1 種(うち重要種 1 種：ドジョウ) 底生動物：51 種(うち重要種 4 種：マルタニシ、モクズガニ、コオイムシ等)
特定外来生物	アレチウリ

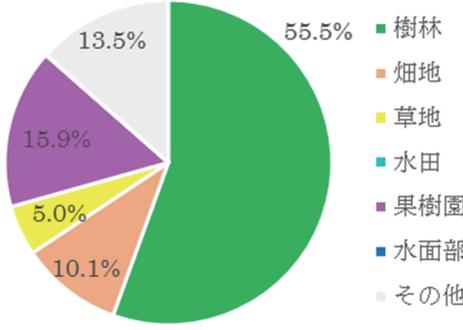
3.4 St. 4 大穴北周辺

表 3-4 St. 4 大穴北周辺

調査地域	St.4 大穴北周辺	
写真	 <p data-bbox="576 719 663 748">木戸川</p>	 <p data-bbox="1145 719 1233 748">斜面林</p>
土地利用状況	<div data-bbox="336 779 943 1178">  <p data-bbox="395 1144 906 1173">宅地は 16.2% (平成 23 年度土地利用現況調査)</p> </div> <div data-bbox="943 779 1476 1178"> <p data-bbox="954 786 1453 1178">船橋市の東部に位置し、調査地域に面する形で東西に木戸川（川幅 2m 程度）を中心として低い河岸段丘面、河岸段丘崖及び一段高い河岸段丘面となっている。低い河岸段丘面には水田は少なく、畑地と耕作していない畑地が半々程度に存在している。河岸段丘崖は、主にクヌギ-コナラ群集などの樹林となっており、一段高い段丘面には、住宅地、畑地や果樹園、クヌギ-コナラ群集が分布している。</p> </div> <p data-bbox="539 1178 738 1207">植生の分布状況</p>	
環境の特徴	<p data-bbox="347 1218 1461 1357">低い河岸段丘面を東西に流れる木戸川は、両岸はコンクリートブロック護岸であるが、一部崩れて周辺を侵食し、一部に水際植生が存在する。木戸川付近は、耕作していない農地が多く、高茎草本群落となっており、これらを営巣場所として利用する哺乳類のカヤネズミや鳥類のオオヨシキリ、ホオジロなどが確認された。</p> <p data-bbox="347 1361 1461 1500">河岸段丘崖には、主に樹林幅は 20~30m 程度のクヌギ-コナラ群集が広がり、クサギ-アカメガシワ群集やタケ・ササ群落が残存しており、ヒサカキ、シロダモ、ヤブニッケイなどの植物も見られた。河岸段丘崖のクヌギ-コナラ群集では、コゲラなどの主に樹林で見られる鳥類が確認された。</p> <p data-bbox="347 1505 1461 1682">一段高い河岸段丘面には、住宅地が西部に固まって存在するが、東部には畑地、果樹園が広がっており、クヌギ-コナラ群集が存在する。この畑地、果樹園では、スベリヒユ、オオニシキソウ、エノコログサなどの畑地雑草が確認された。また、北船橋給水場の北側のクヌギ-コナラ群集は林床が手入れされており、主に明るい樹林に生育する植物の重要種が複数個所で確認された。</p> <p data-bbox="347 1686 1461 1794">今回の調査では、前回調査で確認された日当たりの良い半自然草地に生育する重要種のヒキヨモギが確認されなかった。調査地域は前回調査時から耕作していない農地が多く、それらがオギなどの高茎草本群落に遷移が進み、消失したと推察される。</p>	
確認種	<p data-bbox="347 1800 1153 1830">植物：368 種(うち重要種 4 種:クマシデ、ウスゲチョウジタデ等)</p> <p data-bbox="347 1834 1042 1863">哺乳類：9 種(うち重要種 2 種：ジネズミ、カヤネズミ)</p> <p data-bbox="347 1868 1398 1897">鳥 類：26 種(うち重要種 5 種：カワウ、ヒバリ、ツバメ、オオヨシキリ、ホオジロ)</p> <p data-bbox="347 1901 1326 1930">両生類：3 種(うち重要種 2 種：アズマヒキガエル、シュレーゲルアオガエル)</p> <p data-bbox="347 1935 1294 1964">爬虫類：4 種(うち重要種 3 種：ニホンヤモリ、ニホンカナヘビ、ヒバカリ)</p> <p data-bbox="347 1968 1238 1998">昆虫類：260 種(うち重要種 4 種：ハラビロトンボ、ヤマトタマムシ等)</p>	
特定外来生物	<p data-bbox="347 2024 544 2054">オオカワヂシャ</p>	

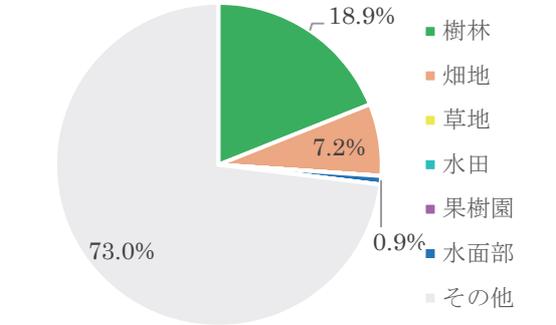
3.5 St. 5 県民の森周辺

表 3-5 St. 5 県民の森周辺

調査地域	St.5 県民の森周辺	
写真	 <p style="text-align: center;">県民の森</p>	 <p style="text-align: center;">白幡川周辺の湿地</p>
土地利用状況	<div style="display: flex; align-items: center;">  <div style="margin-left: 20px;"> <p>■ 樹林 55.5%</p> <p>■ 畑地 10.1%</p> <p>■ 草地 5.0%</p> <p>■ 果樹園 15.9%</p> <p>■ 水面部 13.5%</p> <p>■ その他 4.6%</p> <p>宅地は 4.6% (平成 23 年度土地利用現況調査)</p> </div> </div> <p style="text-align: center;">植生の分布状況</p>	
環境の特徴	<p>県民の森は、クヌギ-コナラ群集、スギ-ヒノキ植林などのまとまった樹林が広がる地域である。樹林は下草刈りなどの管理がされており、ジュウニヒトエなどの明るい樹林に生育する植物が多く確認された。また、コゲラ、アオゲラ、アカハラ、キビタキ、トラツグミなど主に樹林で見られる鳥類が確認された。</p> <p>北東部は、ハンノキ群落、ヤナギ低木群落などの湿地となっており、止水域に生息するヘイケボタルなどの昆虫類が確認された。</p> <p>湿地内には湧水を水源とする細流が多く、川幅は 1m 程度、水深は 10~50cm 程度で白幡川に流れ込んでいる。白幡川や細流の河床は泥や砂泥で水は澄んでおり、湧水を水源とする細流や、水の澄んだ流れの緩やかな細流に生息する魚類が確認された。</p> <p>果樹園、畑地が、県民の森を囲むように分布しており、メヒシバ、スベリヒユ、ヒナタイノコズチなどの畑地雑草が確認された。</p>	
確認種	<p>植 物：349 種(うち重要種 9 種：クマシデ、アカシデ、ジュウニヒトエ等)</p> <p>哺乳類：6 種(重要種の確認なし)</p> <p>鳥 類：24 種(うち重要種 11 種：オオタカ、アオゲラ、キビタキ、トラツグミ等)</p> <p>両生類：2 種(うち重要種 2 種：アズマヒキガエル、ニホンアカガエル)</p> <p>爬虫類：5 種(うち重要種 5 種：ニホンヤモリ、ヒガシニホントカゲ、ジムグリ等)</p> <p>昆虫類：212 種(うち重要種 7 種：ヤマトタマムシ、ヘイケボタル等)</p> <p>魚 類：3 種(うち重要種 3 種：ドジョウ等)</p> <p>底生動物：21 種(うち重要種 1 種)</p>	
特定外来生物	未確認	

3.6 St. 6 古作町周辺

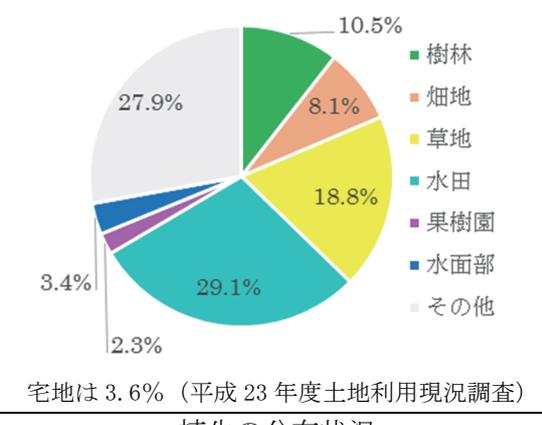
表 3-6 St. 6 古作町周辺

調査地域	St.6 古作町周辺	
写真	 <p data-bbox="480 741 764 775">帯状に分布する斜面林</p>	 <p data-bbox="1086 741 1315 775">古作町周辺の畑地</p>
土地利用状況	 <p data-bbox="344 1155 855 1189">宅地は 43.3% (平成 23 年度土地利用現況調査)</p> <p data-bbox="523 1200 727 1234">植生の分布状況</p>	<p data-bbox="938 887 1468 1133">船橋市の北西部の中山競馬場と行田公園に挟まれた場所に位置し、大半を住宅地が占めている。クヌギ-コナラ群落やムクノキ-エノキ群落などの樹林が、上山公園や帯状の斜面林に分布している。その他、通常時は水が流れていない葛飾川が存在し、一部畑地が点在する。</p>
環境の特徴	<p data-bbox="325 1245 1490 1346">上山公園や斜面林のクヌギ-コナラ群落やムクノキ-エノキ群落では、コナラ、アカシデなどの樹木が確認された。周囲には住宅地が多いが、こうした樹林ではコゲラ、ツミなど主に樹林で見られる鳥類が確認された。</p> <p data-bbox="325 1357 1490 1525">調査地域中央部を東西に葛飾川（川幅 1m 程度）が流れるが、三面コンクリート張りであり、通常時は水が流れていない状態である。一方で、上山公園内には、葛飾川の源流となる湧水が存在し、湿地で見られる昆虫類や底生動物も確認された。また、この湿地では、本来地下水などに生息するが湧水に流され、地表にでてきたと考えられるメクラヨコエビ属^{※1}が確認された。</p> <p data-bbox="325 1536 1490 1637">また、今回の調査では、前回調査で確認されたカイツブリ、バン、アズマヒキガエルなどの止水域を利用する重要種が確認されなかった。これは、前回調査時に存在したため池が宅地に改変され、現在ではまとまった止水域がなくなった影響と考えられる。</p>	
確認種 ^{※1}	<p data-bbox="325 1648 1302 1682">植 物：294 種（うち重要種 7 種：アカシデ、ホルトノキ、コバノタツナミ等）</p> <p data-bbox="325 1693 735 1727">哺乳類：3 種（重要種の確認なし）</p> <p data-bbox="325 1738 1286 1771">鳥 類：24 種（うち重要種 5 種：カワウ、ダイサギ、ツミ、ヒバリ、ツバメ）</p> <p data-bbox="325 1783 799 1816">両生類：確認なし（重要種の確認なし）</p> <p data-bbox="325 1827 1414 1861">爬虫類：3 種（うち重要種 3 種：ニホンヤモリ、ヒガシニホントカゲ、ニホンカナヘビ）</p> <p data-bbox="325 1872 1046 1906">昆虫類：174 種（うち重要種 1 種：エゴヒゲナガゾウムシ）</p>	
特定外来生物	未確認	

※1:環境要素調査で確認を行った。St. 6 は底生動物を調査対象としていないため、確認種欄には含めていない。

3.7 St. 7 神崎川流域

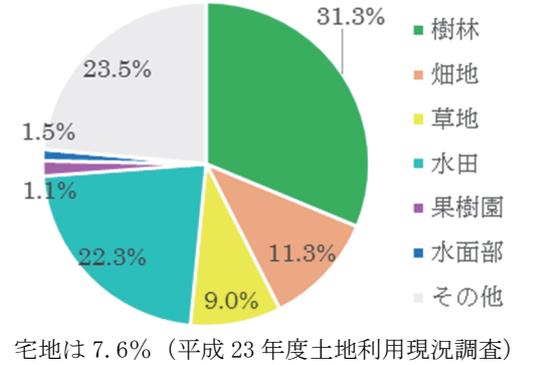
表 3-7 St. 7 神崎川流域

調査地域	St.7 神崎川流域	
写真	 <p style="text-align: center;">神崎川</p>	 <p style="text-align: center;">二重川</p>
土地利用状況	 <p style="text-align: center;">植生の分布状況</p>	<p>船橋市の北東部を流れる神崎川のうち、市内では最上流に位置し、二重川が合流する。河川周辺は水田、耕作していない水田、畑地が広がっている。クヌギ-コナラ群集を主とした斜面林で隔てられ、台地上は市街地が広がっている。河川や水田などの水環境が豊かで、周囲に斜面林などもあり、鳥類、爬虫類、魚類の確認数が最も多かった。</p>
環境の特徴	<p>二重川は川幅 3m 程度、水深は 10~60cm 程度、兩岸はコンクリートブロック護岸や蛇カゴ護岸◇である。河床はコンクリートブロックや砂礫で、抽水植物◇が見られる。神崎川は川幅 10m 程度、水深は 60~200 cm 以上、灌漑期には湛水していた。兩岸は主にコンクリート護岸であり、河床は砂泥である。河川の周囲には水田が広がっているが、水田と河川の間には落差があり連続性に乏しい。</p> <p>河川では、中流域から下流域に生息するハグロトンボ、ナカハラシマトビケラなどの底生動物が確認されたほか、湛水域が見られる神崎川では、止水域に生息するコガムシや河川下流域や池沼に生息するオオヤマトンボが確認された。また、重要種のモツゴ、ギンブナ、ヌマチチブが確認されたが、特定外来生物であるカダヤシ、ブルーギル、オオクチバス、ウシガエル、要注外来生物のミシシippアカミガメも多く確認された。</p> <p>また、神崎川では、二重川に比べて河川沿いにヨシ原が多いため、これらを営巣場所として利用する哺乳類のカヤネズミや鳥類のオオヨシキリなどが確認されたほか、カワウ、ダイサギなどといった水鳥も多く確認された。</p> <p>水田ではウキクサ、ミツバ、アメリカタカサブロウなどの水田雑草、耕作していない水田では、ガマ、セイタカヨシ、イヌホタルイなどの湿性植物が確認された。</p> <p>畑地では、シロザ、マメグンバイナズナ、スカシタゴボウなどの畑地雑草が確認された。</p> <p>今回の調査では、前回調査で確認された、水田、耕作していない水田、湿地などで採餌を行うチュウサギが確認されなかった。調査地域は前回調査時から耕作していない農地が多く、オギなどの高茎草本群落に遷移が進み、チュウサギの採餌を行う環境が減少したと考えられる。</p>	

調査地域	St.7 神崎川流域
確認種	植 物：386種(うち重要種5種：アカシデ、ウスゲ、チョウジタデ等) 哺乳類：8種(うち重要種1種：カヤネズミ) 鳥 類：39種(うち重要種11種：カワウ、ヒバリ、オオヨシキリ、ホオジロ等) 両生類：3種(うち重要種1種：シュレーゲルアオガエル) 爬虫類：9種(うち重要種8種：ニホンスッポン、ニホンヤモリ、ジムグリ、ヤマカガシ等) 昆虫類：251種(うち重要種9種：チョウトンボ、ヒメマイマイカブリ等) 魚 類：16種(うち重要種6種：ギンブナ、モツゴ、ドジョウ、ヌマチチブ等) 底生動物：80種(うち重要種10種：スジエビ、コオイムシ、コガムシ等)
特定外来生物	ナガエツルノゲイトウ、アレチウリ、オオフサモ、ウシガエル、カダヤシ、ブルーギル、オオクチバス

3.8 St. 8 鈴身川流域

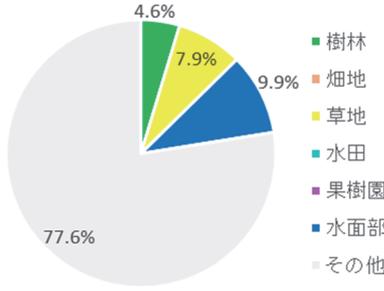
表 3-8 St. 8 鈴身川流域

調査地域	St.8 鈴身川流域	
写真	 <p style="text-align: center;">鈴身川</p>	 <p style="text-align: center;">船橋の尾瀬</p>
土地利用状況	 <p style="text-align: center;">植生の分布状況</p>	<p>船橋市の東部の谷津に位置する。低地には、鈴身川沿いに水田が広がり、一部に畑地や耕作していない水田も分布している。斜面には、クヌギ-コナラ群落を主体とした樹林が分布し、台地上には牧場が一部に見られる。河川、水田などの湿性環境、畑地・牧場などの乾性な環境、樹林など多様な環境が存在するため、全調査地域の中で、植物、両生類、昆虫類、底生動物について最も多くの種が確認された地域でもある。</p>
環境の特徴	<p>南北に鈴身川が流れ、川幅は1m程度、水深は30~60cm程度である。御竹橋より下流側は両岸とも矢板やコンクリート護岸であり、一部にジュズダマ、ミゾソバなどの植物が繁茂する洲がある。コンクリート張りになっている河床には、一部砂礫が堆積しており、イシガイなどの底生動物が確認された。</p> <p>御竹橋より上流側は、一部に木杭も見られ、ヨシなどが生育していた。河床は泥であったため、下流に比べ、主に泥質で見られるドジョウが多く確認された。</p> <p>鈴身川沿い周辺にある水田、耕作していない水田では、オニスゲ、ウキクサ、ヒデリコなどの湿性植物が確認された。水田や周辺用水路ではトウキョウダルマガエル、ニホンアママガエル、シュレーゲルアオガエルなどのカエル類が確認され、カエル類を捕食するヒバカリ、ヤマカガシなどのヘビ類も確認された。また、カルガモ、カウなどの水鳥も確認された。</p> <p>中央部の斜面林では、コナラ、イノデ、ヒサカキ、シロダモなどの植物が確認された。</p> <p>南西部の牧場では、ヒロハノウシノケグサ、シロツメクサ、チガヤなどの植物が確認された。</p> <p>なお、調査範囲外には「船橋の尾瀬」と言われる高才川源流が存在する。湿地を流れる細流とたまりで構成されているが流量は非常に少ない。たまりの水深は5cm程度で落ち葉が厚く堆積しており、硫化水素臭が感じられた。ここでは魚類は確認されなかった。</p>	

調査地域	St.8 鈴身川流域
確認種	植 物：487種(うち重要種12種：クマシデ、ウスゲチョウジタデ、オニスゲ等) 哺乳類：7種(うち重要種1種：ジネズミ) 鳥 類：35種(うち重要種9種：カワウ、ホトトギス、オオタカ、カワセミ等) 両生類：6種(うち重要種4種：トウキョウダルマガエル、シュレーゲルアオガエル等) 爬虫類：5種(うち重要種4種：ヒガシニホントカゲ、アオダイショウ、ヒバカリ等) 昆虫類：299種(うち重要種8種：コオイムシ、ヒメジュウジナガカメムシ等) 魚 類：9種(うち重要種4種：ギンブナ、モツゴ、ドジョウ、ヌマチチブ) 底生動物：81種(うち重要種11種：イシガイ、スジエビ、コガムシ等)
特定外来生物	アレチウリ、オオフサモ、ウシガエル

3.9 St.9 旧坪井川流域

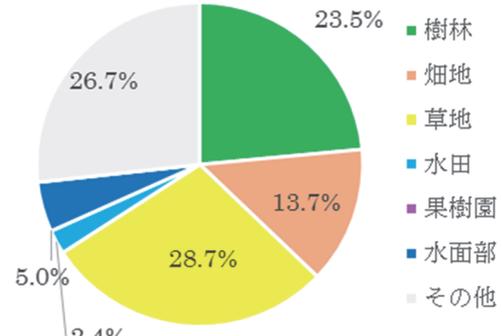
表 3-9 St.9 旧坪井川流域

調査地域	St.9 旧坪井川流域	
写真		
土地利用状況	 <p>宅地は0.7% (平成23年度土地利用現況調査) ※1</p>	<p>植生の分布状況</p> <p>船橋市東部の旧坪井川の上流域に位置する。かつて河川沿いに見られた耕作していない水田や湿地、斜面林は、住宅開発及び公園整備によって消失し、近年、環境が大きく変化した地域である。現在では、上流側は宅地として、下流側は公園として利用されている。</p>
環境の特徴	<p>坪井近隣公園内の調整池では、マガモ、コガモ、キンクロハジロ、カイツブリ、カワセミなど水域を利用する種や重要種の本ツゴ、ギンブナ、ヌマチチブが水際の植生の間などで確認された。また、特定外来生物であるブルーギル、オオクチバス、要注意外来生物のミシシippアカミミガメも多く確認された。</p> <p>公園内ではシバ草地のほかに植栽樹群、マダケ林、調整池及びホタル池ではヨシ、ヒメガマなどの湿性植物が確認された。</p> <p>公園内の南側には、旧坪井川の流れを再生したせせらぎ水路が整備されており、水路沿いは、植栽管理されており、セリ、オランダガラシなどの湿性植物が確認された。</p> <p>さらに、水路の上流部には、ホタル池があり、その周辺にはコナラを主体とした明るい落葉広葉樹林が存在する。ホタル池では、ヨシ、ヒメガマなどの湿性植物が確認された。</p> <p>今回の調査では、前回調査で確認された、ジュウニヒトエ、アオダイショウなどの樹林や草地に生育・生息する重要種、カヤネズミ、オオヨシキリなどの高茎草本群落を利用する重要種は確認されなかった。本地域では大部分が宅地化、公園化されたため、これらが生育・生息地とする樹林、草地、ヨシ原が激減した影響だと推察される。</p>	
確認種	<p>植 物：261種(うち重要種2種：カワヂシャ、ササバモ)</p> <p>哺乳類：7種(重要種の確認なし)</p> <p>鳥 類：34種(うち重要種10種：カイツブリ、カワセミ、セッカ、オオジュリン等)</p> <p>両生類：3種(うち重要種2種：アズマヒキガエル、ニホンアカガエル)</p> <p>爬虫類：4種(うち重要種3種：クサガメ、ニホンカナヘビ、アオダイショウ)</p> <p>昆虫類：174種(うち重要種4種：ホソミイトトンボ、コオイムシ等)</p> <p>魚 類：11種(うち重要種4種：ギンブナ、モツゴ、ヌマチチブ等)</p> <p>底生動物：44種(うち重要種2種：テナガエビ、スジエビ)</p>	
特定外来生物	<p>ウシガエル、ブルーギル、オオクチバス</p>	

※1:宅地としての整備が終わる以前の数値であり、現在は調査地域の多くの面積を宅地が占めている。

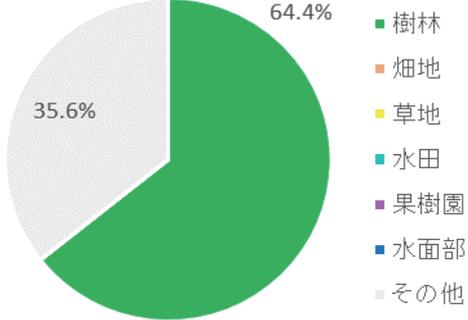
3.10 St. 10 船橋馬込霊園奥の馬込谷地

表 3-10 St. 10 船橋馬込霊園奥の馬込谷地

調査地域	St.10 船橋馬込霊園奥の馬込谷地	
写真	 <p style="text-align: center;">金杉川</p>	 <p style="text-align: center;">金杉川上流の草地</p>
土地利用状況	<div style="display: flex; align-items: center;">  <div style="margin-left: 20px;"> <p>■ 樹林 23.5%</p> <p>■ 畑地 13.7%</p> <p>■ 草地 28.7%</p> <p>■ 水田 5.0%</p> <p>■ 果樹園 2.4%</p> <p>■ 水面部 1.7%</p> <p>■ その他 26.7%</p> </div> </div> <p style="text-align: center;">植生の分布状況</p>	
環境の特徴	<p>北谷津川は川幅 1m 程度、水深は 30～60 cm 程度で、両岸ともコンクリート護岸である。金杉川は、川幅 1m 程度、水深は 20～60 cm 程度で、蛇カゴ護岸であるが水際には植生が見られる。河川ではオニヤンマ、シマアメンボ、チョウトンボなどの水生昆虫が確認された。</p> <p>北谷津川周辺の低地は水田や耕作していない水田が見られ、金杉川の周辺の低地ではヨシ原などが見られた。水田、湿地、池などの水域では、カルガモ、カワセミなど水域を利用する鳥類やアズマヒキガエル、ウシガエルなどのカエル類、ミシシippiaカミミガメなど水辺に生息する両生類・爬虫類が比較的多く確認された。</p> <p>霊園の東部には、林床の明るいクヌギ-コナラ群落が帯状に分布しているが、樹林幅は狭い。樹林内では、ジュウニヒトエなどの明るい樹林に生育する植物が確認された。</p> <p>金杉川上流に位置する谷津の奥はオギ、ヨシの高茎草本にクズ、カナムグラなどのツル植物が絡む草地であった。</p>	
確認種	<p>植 物：453 種(うち重要種 9 種：オニグルミ、ハシバミ、ジュウニヒトエ、ヒメナミキ等)</p> <p>哺乳類：5 種(重要種の確認なし)</p> <p>鳥 類：37 種(うち重要種 7 種：カワウ、オオタカ、カワセミ、ホオジロ、オオジュリン等)</p> <p>両生類：4 種(うち重要種 2 種：アズマヒキガエル、シュレーゲルアオガエル)</p> <p>爬虫類：4 種(うち重要種 3 種：ニホンヤモリ、ニホンカナヘビ、シマヘビ)</p> <p>昆虫類：294 種(うち重要種 9 種：チョウトンボ、コオイムシ、オオサカアオゴミムシ等)</p> <p>魚 類：6 種(うち重要種 2 種：モツゴ、ドジョウ)</p> <p>底生動物：28 種(うち重要種 1 種：コオイムシ)</p>	
特定外来生物	<p>オオフサモ、ウシガエル、カダヤシ</p>	

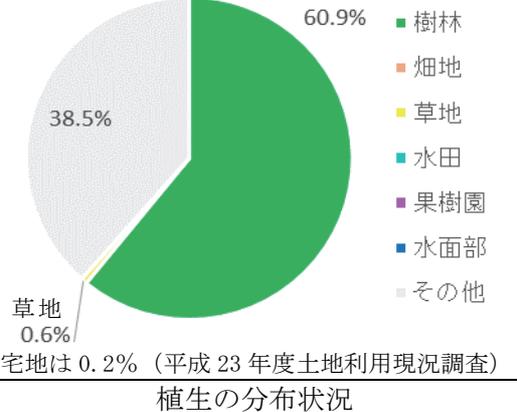
3.11 St. 11 丸山の森緑地

表 3-11 St. 11 丸山の森緑地

調査地域	St.11 丸山の森緑地	
写真		
土地利用状況	<p style="text-align: center;">丸山の森緑地</p> <div style="display: flex; align-items: center;">  <div style="margin-left: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> ■ 樹林 ■ 畑地 ■ 草地 ■ 水田 ■ 果樹園 ■ 水面部 ■ その他 </div> </div> <p>宅地は 26.3% (平成 23 年度土地利用現況調査)</p> <p style="text-align: center;">植生の分布状況</p> <p>船橋市北西部に位置し、市街地に囲まれた小規模なクヌギ-コナラ群集を主体とした斜面林であり、市民の手で管理されている。その他の植生は、ほとんど存在しない。</p>	
環境の特徴	<p>丸山の森緑地の林床は手入れがされており、主に明るい樹林に生育する重要種が多数確認された。また、コゲラ、シジュウカラ、シロハラ、キビタキなどの主に樹林で見られる鳥類や、カドマルエンマコガネ、ヨツボシオオキスイ、ウスキホシテントウ、ダイミョウセセリなどの樹林や林縁に生息する昆虫類が確認された。</p> <p>市街地に囲まれている上、調査面積が狭く、樹林以外の植生がほとんどないため、全分類群を通して確認種数は少なく、両生類は確認されなかった。</p>	
確認種	<p>植 物：250 種(うち重要種 9 種：アカシデ、コバノタツナミ等)</p> <p>哺乳類：2 種(重要種の確認なし)</p> <p>鳥 類：19 種(うち重要種 2 種：ツバメ、キビタキ)</p> <p>両生類：確認なし(重要種の確認なし)</p> <p>爬虫類：1 種(うち重要種 1 種：ニホンカナヘビ)</p> <p>昆虫類：128 種(重要種の確認なし)</p>	
特定外来生物	未確認	

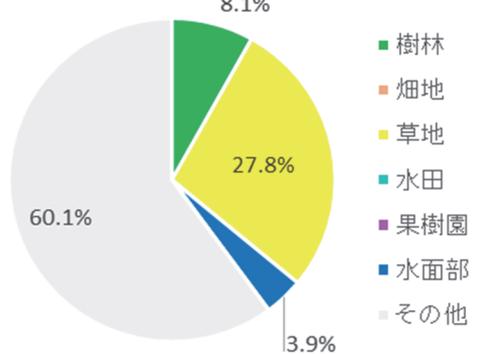
3.12 St.12 藤原市民の森

表 3-12 St.12 藤原市民の森

調査地域	St.12 藤原市民の森	
写真		
藤原市民の森		
土地利用状況	 <p style="text-align: center;">植生の分布状況</p>	<p>船橋市北西部に位置し、周辺は住宅地としての利用が多い、小規模なクヌギ-コナラ群集を主体とした樹林であり、市民の手で管理されている。地区内の東側は新たに宅地化されている。その他の植生は、ほとんど存在しない。</p>
環境の特徴	<p>藤原市民の森内の林床は手入れがされており、主に明るい樹林に生育する植物が多数確認された。また、コゲラ、シジュウカラ、エナガなどの主に樹林で見られる鳥類や、ミヤマカメムシ、カタモンオオキノコムシ、ナガゴマフカミキリなどの樹林に生息する昆虫類が確認された。また、渡りをするチョウのアサギマダラも確認された。</p> <p>市街地に囲まれている上、調査面積が狭く、樹林以外の植生がほとんどないため、全分類群を通して確認種数は少なく、両生類は確認されなかった。</p>	
確認種	<p>植 物：228種(うち重要種7種：オニグルミ、アカシデ等) 哺乳類：2種(重要種の確認なし) 鳥 類：19種(うち重要種2種：ツバメ、キセキレイ) 両生類：確認なし(重要種の確認なし) 爬虫類：3種(うち重要種3種：ニホンヤモリ、ヒガシニホントカゲ等) 昆虫類：149種(うち重要種4種：ヤマトタムシ、アサギマダラ、コシロシタバ等)</p>	
特定外来生物	未確認	

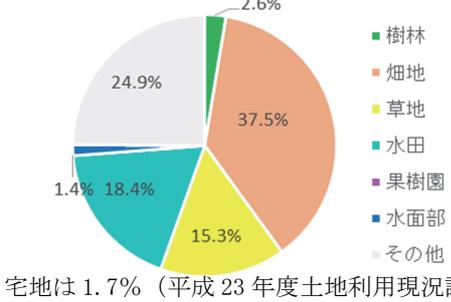
3.13 St.13 長津川調節池公園

表 3-13 St.13 長津川調節池公園

調査地域	St.13 長津川調節池公園	
写真	 <p data-bbox="571 750 657 779">長津川</p>	 <p data-bbox="1110 750 1279 779">長津川調節池</p>
土地利用状況	<div data-bbox="347 801 879 1234">  <p data-bbox="347 1200 855 1229">宅地は 9.9% (平成 23 年度土地利用現況調査)</p> <p data-bbox="507 1238 703 1267">植生の分布状況</p> </div> <div data-bbox="903 902 1458 1155"> <p>船橋市西部を流れる長津川とその調節池が一体的に整備された公園であり、池の周りにはヨシ群落やヤナギ低木群落などからなる湿地が存在する。公園の東側にはムクノキ-エノキ群集の明るい斜面林が広がっている。公園内にはまとまった樹林はなく、芝生が整備されている。</p> </div>	
環境の特徴	<p>長津川の川幅は、1~2m 程度、水深は 10~200 cm 程度、両岸は矢板護岸である。河床は礫や砂で、水はやや洗剤臭が感じられた。数個体ではあるが、ウグイ、アユなどの回遊魚やボラなどの汽水・海水魚も確認されており、海からの連続性が保たれていると考えられる。</p> <p>調節池内にはヨシ群落が広がりヨシ、オランダガラシ、セリなどの湿性草本やアカメヤナギ、イヌコリヤナギなどのヤナギ類、重要種のカワヂシャなども確認された。また、ギンヤンマ、シオカラトンボなど主に止水域で見られる種が確認された。</p> <p>芝生では、シバ、シロツメクサ、カゼクサなどの路傍雑草が確認された。</p> <p>また、東部の斜面には、ムクノキ、エノキ、ケヤキなどから構成されるムクノキ-エノキ群集が確認された。</p>	
確認種	<p>植 物：279 種(うち重要種 4 種：コバノタツナミ、カワヂシャ等)</p> <p>哺乳類：3 種(重要種の確認なし)</p> <p>鳥 類：25 種(うち重要種 4 種：カワウ、コサギ、カワセミ、ツバメ)</p> <p>両生類：1 種(重要種の確認なし)</p> <p>爬虫類：4 種(うち重要種 3 種：クサガメ、ニホンヤモリ等)</p> <p>昆虫類：224 種(うち重要種 4 種：ムスジイトトンボ、ヤマトタマムシ等)</p> <p>魚 類：15 種(うち重要種 2 種：ギンブナ、モツゴ)</p> <p>底生動物：39 種(うち重要種 3 種：スジエビ、モクズガニ、ウチワヤンマ)</p>	
特定外来生物	<p>オオフサモ、オオキンケイギク、ウシガエル、カダヤシ</p>	

3.14 St. 14 海老川流域

表 3-14 St. 14 海老川流域

調査地域	St.14 海老川流域	
写真	 <p data-bbox="555 723 671 752">北谷津川</p>	 <p data-bbox="1078 723 1313 752">海老川流域の水田</p>
土地利用状況	 <p data-bbox="507 1093 703 1126">植生の分布状況</p>	<p data-bbox="906 835 1492 1048">船橋市の中央部に位置し、海老川の支川である北谷津川、念田川など複数の河川が存在している。河川沿いの平地には水田、畑地やススキ群落、オギ群落などの草場が広がっており、西側の斜面林にはムクノキ-エノキ群集が帯状に分布し、市街地が隣接している。</p>
環境の特徴	<p data-bbox="320 1131 1492 1384">調査地域中央に念田川、西側に北谷津川が南北に流れる。念田川の川幅は1~2m程度、水深は30~100cm程度である。河床は泥や砂泥で、水はやや洗剤臭が感じられた。北谷津川の川幅は1~3m、水深は20~70cm程度、河床は砂泥や礫であった。両河川ともに両岸は矢板及びコンクリート護岸となっていたが、北谷津川では下流部には植生がある洲があり、魚類は、北谷津川での確認が多かった。また、ニホンウナギやモクズガニなどの海と河川を行き来する魚類や底生動物が確認された。また、河川内では、キシユウスズメノヒエ、ヨシなどの湿性植物やヒドリガモ、カルガモ、カワウなどの水鳥が確認された。</p> <p data-bbox="320 1386 1492 1525">調査地域内の西側の北谷津川沿いに、畑地が広がり、東側の念田川沿いに水田や耕作していない水田が広がる。耕作していない農地などでは、ススキ草地、セイタカアワダチソウ群落、ガマ、オギ群落などの高茎草本が確認された。また、畑地では、スギナ、クワクサ、ザクロソウなどの畑地雑草が確認された。</p> <p data-bbox="320 1527 1492 1597">調査地域西側の斜面には、ムクノキ、エノキ、コブシなどから構成されるムクノキ-エノキ群集が確認された。</p>	
確認種	<p data-bbox="320 1601 1492 1635">植 物：394種(うち重要種4種：ウスゲチョウジタデ、カワヂシャ等)</p> <p data-bbox="320 1637 1492 1671">哺乳類：5種(重要種の確認なし)</p> <p data-bbox="320 1673 1492 1706">鳥 類^{※1}：32種(うち重要種8種：カワウ、コサギ、コチドリ、オオタカ、セッカ等)</p> <p data-bbox="320 1709 1492 1742">両生類：3種(うち重要種1種：トウキョウダルマガエル)</p> <p data-bbox="320 1744 1492 1778">爬虫類：8種(うち重要種7種：クサガメ、ニホンイシガメ等)</p> <p data-bbox="320 1780 1492 1814">昆虫類：218種(うち重要種2種：コハンミョウ、ヤマトタマムシ)</p> <p data-bbox="320 1816 1492 1850">魚 類：11種(うち重要種5種：ニホンウナギ、ギンブナ等)</p> <p data-bbox="320 1852 1492 1888">底生動物：57種(うち重要種6種：マルタニシ、スジエビ、モクズガニ等)</p>	
特定外来生物	アレチウリ、オオフサモ、オオカワヂシャ、ウシガエル、カダヤシ	

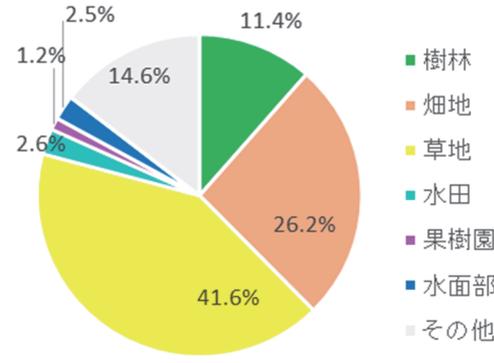
※1:鳥類は、海老川の河口付近において、St.14-2 海老川流域(下流)として調査を行った。St.14-2の概要は以下のとおりである。

環境の特徴：カルガモなどの多数の水鳥やスズガモなどの主に海辺で見られる鳥類が確認された。

確認種：31種(うち重要種10種：スズガモ、ホオジロガモ、カワウ、ハヤブサ等)

3.15 St. 15 二重川流域（上流）

表 3-15 St. 15 二重川流域（上流）

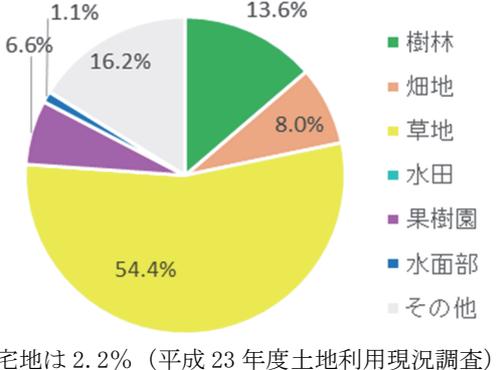
調査地域	St.15 二重川流域(上流)	
写真		
土地利用状況	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <p style="text-align: center;">二重川（上流）</p>  <p style="text-align: center;">植生の分布状況^{*1}</p> </div> <div style="width: 45%;"> <p style="text-align: center;">二重川周辺の草地</p> <p>船橋市の北部に位置し、二重川沿いの地域（St. 16 の上流側）である。周辺の多くが畑地で占められ、スギ・ヒノキ植林、クヌギ・コナラ群集、ハンノキ群落などの樹林やオギ群集などの高茎草本群落も見られた。二重川源流部は、戸建が多い市街地として利用されている。</p> </div> </div>	
環境の特徴	<p>調査地域の中央に二重川が東西に流れる。両岸はコンクリートブロック、蛇カゴ護岸である。河床も同様の床固が見られたが、一部で礫や砂泥となり、抽水植物も見られた。水はやや洗剤臭が感じられた。</p> <p>堤外地[◇]ではオギ、キシウズメノヒユ、クサヨシなどの湿地に生育する植物が確認され、中流域から下流域に生息するスジエビ、ウデマガリコカゲロウ、コガタシマトビケラなどが確認されたほか、アメリカツノウズムシ、フロリダマミズヨコエビ、サホコカゲロウなどの比較的汚濁に強い底生動物が確認された。</p> <p>また、二重川の右岸側にスゲ類やヨシが生育する湿地が確認された。湿地では、ハイイログンゴロウ、キイロヒラタガムシなど浅い湿地に生息する種が確認された。</p> <p>調査範囲の中央部にハンノキ群落が分布し、ハンノキ、クサヨシ、オオブタクサなどの主に湿地で見られる植物のほかにミズキ、ムクノキ、イボタノキなどの植物が確認された。さらにその南部は、スギ、ヒノキ、サワラなどから構成されるスギ・ヒノキ植林、コナラ、クヌギ、ヤブニッケイなどで構成されるクヌギ・コナラ群集となっている。</p> <p>堤内地[◇]を河川に沿うように分布するオギ群集では、チガヤ、ヒロハノウシノケグサなどの高茎草本が確認され、南西部に多い畑地では、スベリヒユ、ノミノツヅリ、ウシハコベなどの畑地雑草が確認された。オギ群集や畑地ではホオジロなどの草地、畑地で採餌・繁殖を行う鳥類が確認された。</p>	

※1:左岸の白井市に該当する地域を除いた船橋市のみデータを記載した。

調査地域	St.15 二重川流域(上流)
確認種	植 物：393 種(うち重要種 7 種：オニグルミ、カワヂシャ等) 哺乳類：7 種(重要種の確認なし) 鳥 類：28 種(うち重要種 7 種：バン、カワセミ、カケス、ヒバリ、ホオジロ等) 両生類：3 種(うち重要種 2 種：アズマヒキガエル、ニホンアカガエル) 爬虫類：8 種(うち重要種 7 種：クサガメ、ニホンスッポン等) 昆虫類：150 種(うち重要種 3 種：コハンミョウ、ヒメマイマイカブリ等) 魚 類：7 種(うち重要種 3 種：ギンブナ、モツゴ、ドジョウ) 底生動物：45 種(うち重要種 1 種：スジエビ)
特定外来生物	アレチウリ、オオキンケイギク、ウシガエル、カダヤシ、ブルーギル

3.16 St. 16 二重川流域（下流）

表 3-16 St. 16 二重川流域（下流）

調査地域	St.16 二重川流域(下流)	
写真	 <p style="text-align: center;">二重川（下流）</p>	 <p style="text-align: center;">県民の森林縁部の湿地</p>
土地利用状況	 <p style="text-align: center;">植生の分布状況^{※1}</p>	<p>船橋市の北部に位置し、二重川沿いの地域（St. 15 の下流側）であり、畑地や牧草地などが河川沿いに広がっている。また、ヤナギ低木群落、ハンノキ群落といった湿性木本群落も見られる。また右岸側の県民の森の林縁部には、スゲ類やヨシが茂るため池や湿地、福良の泉を源流とする湿地などが広く見られる。</p>
環境の特徴	<p>調査地域の中央に二重川が東西に流れる。兩岸はコンクリートブロック、蛇カゴ護岸である。河床も同様の床固が見られたが、一部で礫や砂泥となり、抽水植物も見られた。St. 15 の下流側であり、ほぼ同様の環境であるが、下流に行くに従い、洗剤臭はあまり感じられなくなった。</p> <p>河川では、中流域から下流域に生息するスジエビ、ウデマガリコカゲロウ、コガタシマトビケラのほか、アメリカツノウズムシ、フロリダマミズヨコエビ、サホコカゲロウなどの比較的汚濁に強い底生動物が確認された。</p> <p>堤内地の南西部にカワヤナギ、アカメヤナギ、ヤマグワなどから構成されるヤナギ低木群落が確認され、樹液がでるヤナギ類の生育している箇所では、ノコギリクワガタ、クロカナブン、カブトムシなどの樹液食昆虫が確認された。</p> <p>二重川左岸側の白井市側に畑地が多く、ザクロソウ、スベリヒユ、ウシハコベなどの畑地雑草が確認された。</p>	
確認種	<p>植 物：341 種(うち重要種 3 種：クマシデ、カワヂシャ等)</p> <p>哺乳類：5 種(重要種の確認なし)</p> <p>鳥 類：33 種(うち重要種 10 種：カワウ、オオタカ、イカル、クロジ等)</p> <p>両生類：3 種(うち重要種 2 種：アズマヒキガエル、ニホンアカガエル)</p> <p>爬虫類：6 種(うち重要種 5 種：ニホンヤモリ、ニホンカナヘビ等)</p> <p>昆虫類：174 種(うち重要種 6 種：アオヤンマ、ヤブヤンマ、ヤマトタマムシ等)</p> <p>魚 類：11 種(うち重要種 4 種：ギンブナ、モツゴ、ドジョウ等)</p> <p>底生動物：55 種(うち重要種 2 種：スジエビ等)</p>	
特定外来生物	アレチウリ、ウシガエル、カダヤシ	

※1:左岸の白井市に該当する地域を除いた船橋市のみデータを記載した。

3.17 ふなばし三番瀬海浜公園周辺

表 3-17 ふなばし三番瀬海浜公園周辺

調査地域	ふなばし三番瀬海浜公園周辺	
写真		
環境の特徴	砂浜	干潟・浅海域
	<p>船橋市の南西部に位置する干潟・浅海域である。</p> <p>浅海域に広く生息しているマハゼ、アマモ場などに多く生息するニクハゼなどのハゼ類、アサリ、オキシジミ、サクラガイなどの二枚貝やミズヒキゴカイといったゴカイ類などの底生動物が生息している。また、干潟・浅海域に生息する貝類やゴカイ、甲殻類などの底生動物を採餌するスズガモや、ハマシギ、ダイゼン、ミヤコドリや魚類を採餌するカワウなどの鳥類が生息している。</p>	
確認種 ^{※1}	<p>鳥 類：73 種(うち重要種 38 種：スズガモ、ハマシギ、コアジサシ等)</p> <p>魚 類：37 種(うち重要種 2 種：ヒモハゼ、エドハゼ)</p> <p>底生動物：95 種(うち重要種 7 種：ウミゴマツボ、ムラクモキジビキガイ、サクラガイ等)</p>	
特定外来生物	未確認	

※1：種名、科の配列、種数は「平成 25 年度三番瀬鳥類個体数経年調査」、「平成 19 年度三番瀬海生生物現況調査（魚類着底状況）」、「平成 18 年度三番瀬海生生物現況調査（底生生物及び海域環境）」に従った。

4. 船橋市の自然環境の特徴

4.1 自然環境を代表する種

各調査地域は、「樹林」、「畑地・草地」、「水田・湿地」、「河川・池沼」、「干潟・浅海域」などの自然環境から構成されている。

船橋市の自然環境を代表する種は、それぞれの自然環境で普遍的に見られる種とそれぞれの自然環境の中でも主に比較的良好な環境や特徴的な環境で見られる種とした。

それぞれの自然環境で普遍的に見られる種は、在来種のうち、表 1-4 の選定基準に基づく重要種を除く種（以下、「一般種」という。）とした。また、それぞれの自然環境の中でも主に比較的良好な環境や特徴的な環境で見られる種は、表 1-4 の選定基準に基づく重要種とした。整理対象は、今回の調査で確認された種と千葉県実施の三番瀬自然環境調査のうち船橋市周辺で確認された種とした。

自然環境を代表する種を表 4-1～表 4-2 に示す。

表 4-1 自然環境を代表する種（一般種）

	樹林	畑地・草地	水田・湿地	河川・池沼	干潟・浅海域
植物	クヌギ コナラ ムクノキ シラカシ ヤブツバキ アズマネザサ ナガバジャノヒゲ	ススキ チガヤ ゲンノショウコ チカラシバ ヘクソカズラ ナズナ ホトケノザ カタバミ	オギ ヨシ アゼナ ハンノキ アカメヤナギ ハンゲショウ タネツケバナ	オギ ヨシ マコモ ヒメガマ	-
哺乳類	タヌキ	イタチ ノウサギ	イタチ	-	-
鳥類	ウグイス キジバト シジュウカラ コゲラ	カッコウ キジ ムクドリ モズ タヒバリ	アオサギ ゴイサギ	カルガモ ハクセキレイ セグロセキレイ アオサギ ゴイサギ	オナガガモ ウミネコ ユリカモメ
両生類	-	-	-	-	-
爬虫類	-	-	-	-	-
昆虫類	スジグロシロチョウ カネタタキ ハラビロカマキリ チャミノガ ニイニイゼミ カナブン	アオスジアゲハ キアゲハ オオカマキリ オンブバッタ ショウリョウバッタ キタテハ エンマコオロギ	シオカラトンボ ギンヤンマ コバネイナゴ アキアカネ	ハグロトンボ※1 シマアメンボ※1	-
魚類	-	-	タモロコ	アユ※2 ウグイ※2 ボラ※2	マハゼ ニクハゼ イシガレイ ギンポ ヒメハゼ
底生動物	-	-	ヒメゲンゴロウ ヒメタニシ	ナミウズムシ※1 カワニナ※1 ドブガイ※3	アサリ アシナガゴカイ ミズヒキゴカイ

※1 流水域に生息

※2 海との連続性がある河川に生息

※3 止水域に生息

表 4-2(1) 自然環境を代表する種（重要種）※1

	樹林	畑地・草地	水田・湿地	河川・池沼	干潟・浅海域
植物	オシダ オニグルミ クマシデ アカシデ セリバオウレン イカリソウ ヤマブキソウ ヤブサンザシ イワガラミ ヤブムグラ ジュウニヒトエ※2 カタクリ※2 エビネ ギンラン※2 キンラン※2 ササバギンラン※2 クゲヌマラン※2 タシロラン コ克蘭※2 カザグルマ※3	コバノヒノキシダ コバノタツナミ アマナ	ミズニラ ウメモドキ ウスゲチヨウジタ デ ヒメナミキ カワヂシャ オニスゲ※5 ヤブスゲ オオアゼテンツキ	ミズニラ※6 ササバモ セイタカヨシ ミクリ	-
哺乳類	-	カヤネズミ※4	カヤネズミ※4	-	-
鳥類	ホトトギス ツミ オオタカ ノスリ アオゲラ カケス ミソサザイ トラツグミ キビタキ オオルリ イカル クロジ	オオタカ ノスリ ヒバリ ツバメ セッカ ホオジロ	ダイサギ コサギ バン オオバン クサシギ オオヨシキリ※4 セッカ オオジュリン	カイツブリ カワウ ダイサギ コサギ バン オオバン クサシギ イソシギ カワセミ オオヨシキリ※4 キセキレイ オオジュリン	スズガモ ホオジロガモ カワウ コサギ コチドリ イソヒヨドリ ウミアイサ カンムリカイツブリ リ ダイゼン シロチドリ メダイチドリ ミヤコドリ オグロシギ オオソリハシシギ ダイシャクシギ キアシシギ ソリハシシギ キョウジョシギ オバシギ ミユビシギ トウネン ウズラシギ ハマシギ キリアイ コアジサシ

表 4-2(2) 自然環境を代表する種（重要種）※1

	樹林	畑地・草地	水田・湿地	河川・池沼	干潟・浅海域
両生類	アズマヒキガエル シュレーゲルアオガエル ニホンアカガエル	-	アズマヒキガエル トウキョウダルマガエル ニホンアカガエル シュレーゲルアオガエル	トウキョウダルマガエル ※6	-
爬虫類	ジムグリ アオダイショウ	ニホンカナヘビ シマヘビ	シマヘビ ヒバカリ ヤマカガシ	ニホンイシガメ ニホンスッポン	-
昆虫類	ヨコヅナツチカメムシ ヒメマイマイカブリ ヤマトタマムシ エゴヒゲナガゾウムシ ウマノオバチ コシロシタバ	ルリクチブトカメムシ コハンミョウ ヒメマイマイカブリ ヒゲナガハナノミ ギンイチモンジセセリ ミヤマチャバネセセリ	ホソミイトトンボ ムスジイトトンボ キイロサナエ アオヤンマ カトリヤンマ ハラビロトンボ コオイムシ オオサカアオゴミムシ マルガタゲンゴロウ コガムシ ヒゲナガハナノミ ヘイケボタル キアシネクイハムシ スゲハムシ キヒゲアシブトハナアブ ミドリシジミ※8 コムラサキ※8	ホソミイトトンボ ムスジイトトンボ ウチワヤンマ クロスジギンヤンマ カトリヤンマ ヤブヤンマ チョウトンボ オオミズスマシ コガムシ キアシネクイハムシ	-
魚類	-	-	スナヤツメ類※5 ギンブナ モツゴ ドジョウ ホトケドジョウ※5 メダカ南日本集団 ヌマチチブ	ニホンウナギ※9 ギンブナ モツゴ ニゴイ ドジョウ ナマズ メダカ南日本集団 ヌマチチブ	ヒモハゼ エドハゼ
底生動物	-	-	マルタニシ カトリヤンマ キイロサナエ ホンサナエ コオイムシ マルガタゲンゴロウ マダラコガシラミズムシ コガムシ ウキクサミズゾウムシ	イシガイ ミゾレヌマエビ※9 テナガエビ※9 スジエビ サワガニ※7 モクズガニ※9 セスジイトトンボ カトリヤンマ※6 キイロサナエ※7 ホンサナエ※7 ウチワヤンマ※6 オオミズスマシ マダラコガシラミズムシ ※6 コガムシ※6	ウミゴマツボ ムラクモキジビキ ガイ サクラガイ オキシジミ マメコブシガニ コメツキガニ オオノガイ

※1 生育・生息環境が広く、多様な環境を利用する種等を除いて記載した。

※2 明るい二次林に生育

※3 林縁部に生育

※4 高茎草本群落に生育・生息

※5 湧水の近辺や水のきれいな細流、湿地に生育・生息

※6 河川・池沼では、止水域に生育・生息

※7 河川・池沼では、流水域に生息

※8 湿性の樹林（ハンノキ、ヤナギ等）に生息

※9 海との連続性のある河川に生息

4.2 特定外来生物・要注意外来生物

船橋市において、外来種であって、生態系、人の生命・身体、農林水産業へ被害を及ぼす種、または及ぼすおそれがある種である特定外来生物と、特定外来生物には該当しないが、生態系に悪影響を及ぼすおそれがある要注意外来生物を整理した。特定外来生物と要注意外来生物を定めている法律・リストを、表 4-3 に示す。

また、自然環境別の特定外来生物・要注意外来生物を表 4-4 に示す。

表 4-3 特定外来生物・要注意外来生物を定める法律・リスト

名称	名称
特定外来生物	特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律 (平成 16 年 6 月 2 日法律第 78 号 最終改正：平成 26 年 6 月 13 日法律第 69 号)
要注意外来生物	要注意外来生物リスト (環境省、平成 17 年 8 月 12 日、要注意外来生物リストの公表等について)

表 4-4 自然環境別の特定外来生物・要注意外来生物

	樹林	畑地・草地	水田・湿地	河川・池沼	干潟・浅海域
植物	ハリエンジュ トキワツユクサ	<u>オオキンケイギク</u> <u>アレチウリ</u> エゾノギンギシ ハルザキヤマガラシ イタチハギ ハリエンジュ ムラサキカタバミ イチビ メマツヨイグサ コマツヨイグサ ランタナ ワルナスビ ヤセウツボ ヘラオオバコ ブタクサ オオブタクサ アメリカセンダングサ コセンダングサ アメリカオニアザミ オオアレチノギク ヒメムカシヨモギ ハルジオン キクイモ ブタナ セイタカアワダチソウ ヒメジョオン セイヨウタンポポ オオオナモミ メリケンカルカヤ カモガヤ シナダレスズメガヤ オニウシノケグサ ネズミホソムギ ネズミムギ	<u>ナガエツルノゲイト</u> <u>ウ</u> <u>オオフサモ</u> ハルザキヤマガラシ オランダガラシ アメリカセンダング サ ヒメムカシヨモギ オオカナダモ コカナダモ ホテイアオイ キショウブ トキワツユクサ キシユウスズメノヒ エ メリケンガヤツリ	<u>オオカワヂシヤ</u> <u>ナガエツルノゲイト</u> <u>ウ</u> <u>オオフサモ</u> オランダガラシ オオカナダモ コカナダモ ホテイアオイ キショウブ メリケンガヤツリ	-
哺乳類	-	-	-	-	-
鳥類	-	-	-	-	-
両生類	-	-	-	<u>ウシガエル</u>	-
爬虫類	-	-	-	ミシシッピアカミミ ガメ	-
昆虫類	アカボシゴマダラ	-	-	-	-
魚類	-	-	<u>カダヤシ</u>	<u>カダヤシ</u> <u>ブルーギル</u> <u>オオクチバス</u> タイリクバラタナゴ カムルチー	-
底生動物	-	-	アメリカザリガニ	アメリカザリガニ	-

※ 太字+下線：特定外来生物 その他：要注意外来生物

4.3 自然環境別の特徴

1) 樹林

船橋市の樹林は、北部に多く分布しており、特に谷津や河岸段丘が多い地形的要因から河岸段丘崖に多数存在している。南部では平地の公園・寺社や企業緑地などを中心に点在している。船橋市の樹林の分布状況を図 4-1 に示す。

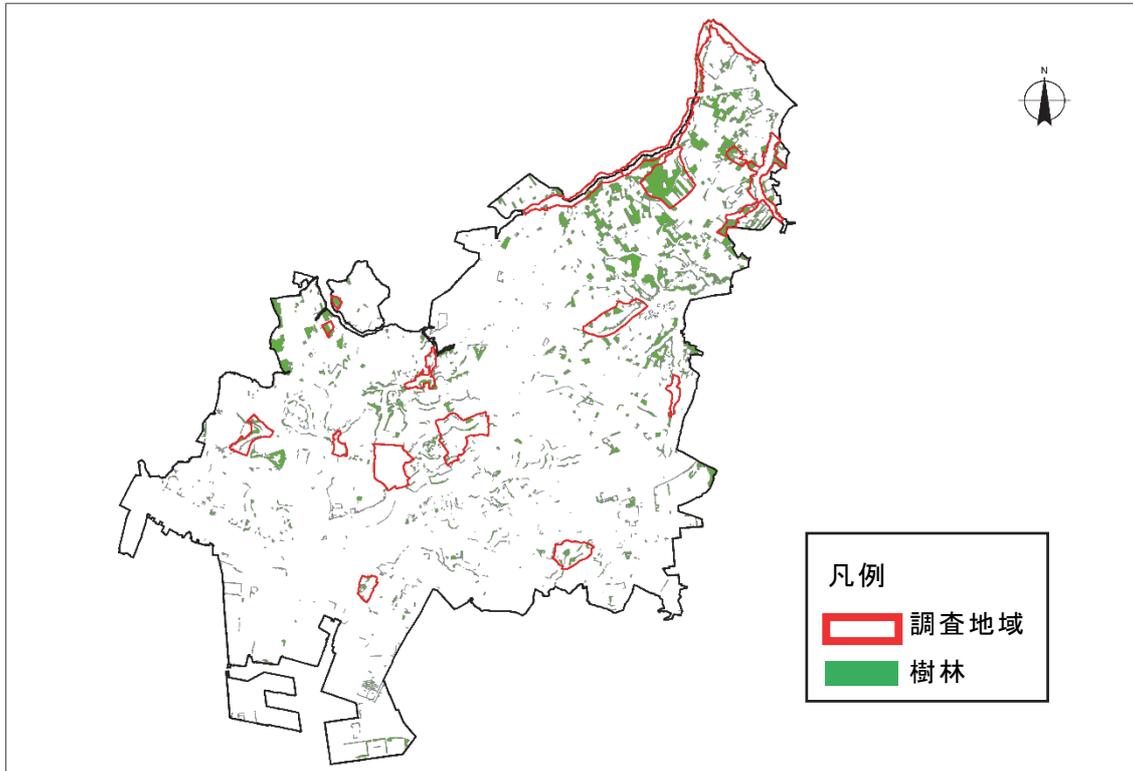


図 4-1 船橋市の樹林の分布状況

調査地域の樹林面積の過半数は、クヌギ-コナラ群集の二次林で占められ、次いでスギ・ヒノキ・サワラ植林が多い。その他、ムクノキ-エノキ群集、ケヤキ-シラカシ群落といった二次林、植林由来のモウソウチクやマダケの竹林などが見られる。わずかながらアカマツ群落やクロマツ植林、ヤブコウジ-スダジイ群集なども見られる。

クヌギ-コナラ群集などの二次林では、高木層をコナラ、クヌギ、イヌシデなどが占め、亜高木層をコブシ、低木層をムラサキシキブ、アズマネザサ、アオキ、草本層にナガバジャノヒゲ、キヅタなどが生育している。クヌギ-コナラ群集では、キンラン、コ克蘭、ジュウニヒトエなどの明るい樹林に生育する草本類が生育している。また、これらに加え本来の自然植生である常緑樹林を構成するシラカシ、ヤブツバキ、ヒサカキ、シロダモ、ヤブニッケイなどの常緑樹も多く生育している。

スギ・ヒノキ・サワラ植林では、高木層にスギ、ヒノキなどが生育し、亜高木層、

低木層にムクノキ、シラカシ、ヒサカキ、草本層にドクダミ、キツタなどが生育している。

調査地域の樹林では、ウグイス、キジバト、シジュウカラ、コゲラ、ツミ、カケス、アオゲラ、キビタキ、トラツグミなどの鳥類やタヌキなどの哺乳類、爬虫類のアオダイショウ、スジグロシロチョウ、カネタタキ、ハラビロカマキリ、ヨコヅナツチカメムシ、ヤマトタマムシなどの昆虫類が生息している。

また、樹林の林縁部では、クサギ、アカメガシワ、タラノキ、ハリギリなどの主に明るい環境で生育する樹木が多く生育している。

また、河川や耕作地周辺の樹林では、ジムグリ、アオダイショウ、アズマヒキガエル、ニホンアカガエルなどの両生類、爬虫類も生息している。

2) 畑地・草地

船橋市の畑地は、東部や中央部に多く分布しており、河川沿いから一段上がった台地に多数存在する。船橋市の草地は、河川沿いに多く、調査地域内では放棄畑雑草群落、ススキ群落、路傍・空地雑草群落などが見られた。

船橋市の畑地の分布状況を図 4-2、草地の分布状況を図 4-3 に示す。

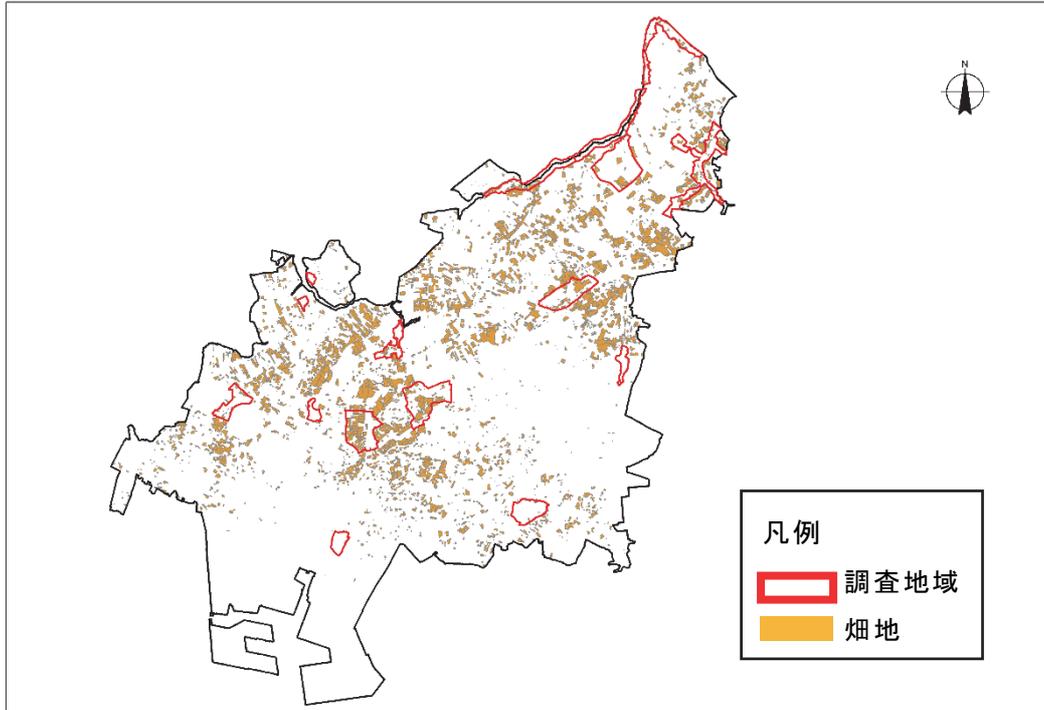
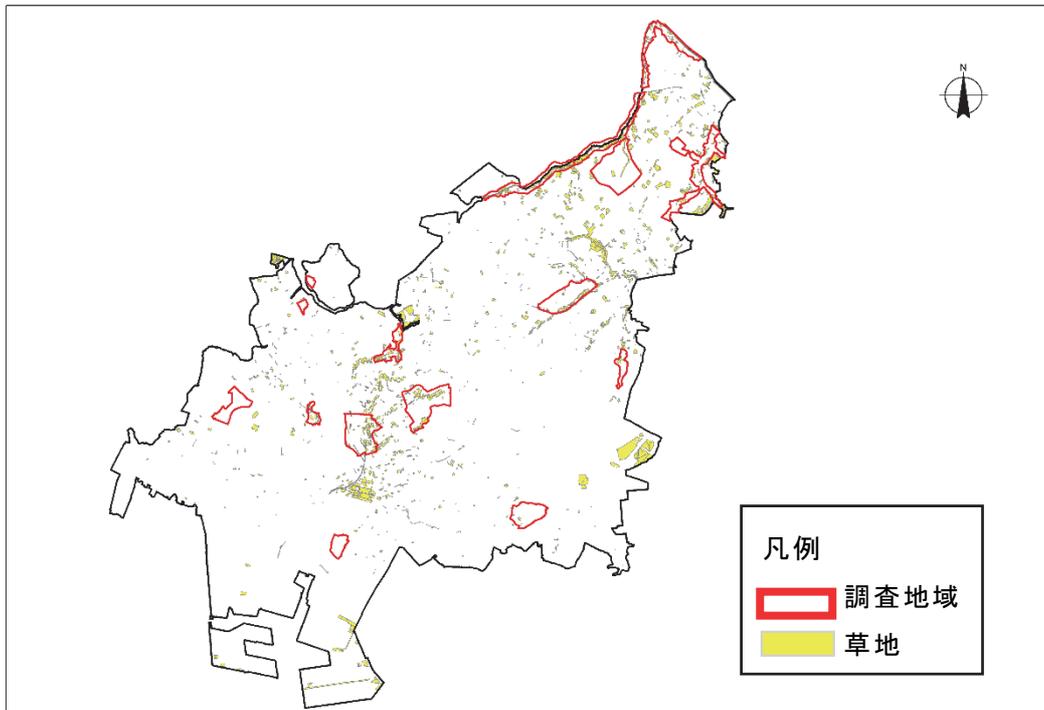


図 4-2 船橋市の畑地の分布状況



※植生の分布図では、湿地・草地を含めて、草地として整理している。

図 4-3 船橋市の草地の分布状況

畑地では、シロザ、ウシハコベ、ナズナ、コニシキソウなどの好窒素性の畑地雑草が多く生育し、ヒメジュウジナガカメムシやルリクチブトカメムシなどの昆虫類が生息している。

市街地や公園内などの低茎草本群落を中心とした路傍・空地雑草群落では、オオバコ、オオイヌノフグリ、ウラジロチチコグサ、ヨモギなどの踏圧に強い路傍雑草が多く生育しており、トノサマバッタ、ナガメ、ベニシジミなどの昆虫類が生息している。

放棄畑雑草群落やススキ群落では、ヒロハノウシノケグサ、チガヤ、セイタカアワダチソウなどの高茎草本が生育しており、イネ科の高茎草本群落には、カヤネズミが生息している。

水路や水田、河川の周辺の草地では、ヒゲナガハナノミなどの昆虫類やニホンアマガエルなどの両生類が生息している。

調査地域の畑地・草地全体を通して、イタチ、ノウサギなどの哺乳類、カワラヒワ、キジ、ヒバリ、ムクドリ、モズ、タヒバリ、ホオジロなどの鳥類やニホンカナヘビ、シマヘビなどの爬虫類、アオスジアゲハ、キアゲハ、オオカマキリ、オンブバッタ、ショウリョウバッタなどの昆虫類が生息している。

なお、草地では、特定外来生物のオオキンケイギク、アレチウリが生育しており、特にアレチウリは河川沿いの草地で多く生育している。

3) 水田・湿地

船橋市の水田・湿地は、河川沿いを中心に分布している。調査地域の湿地は、オギ群落やヨシクラス、放棄水田雑草群落などからなる。船橋市の水田の分布状況を図 4-4 に、湿地の分布状況を図 4-5 に示す。

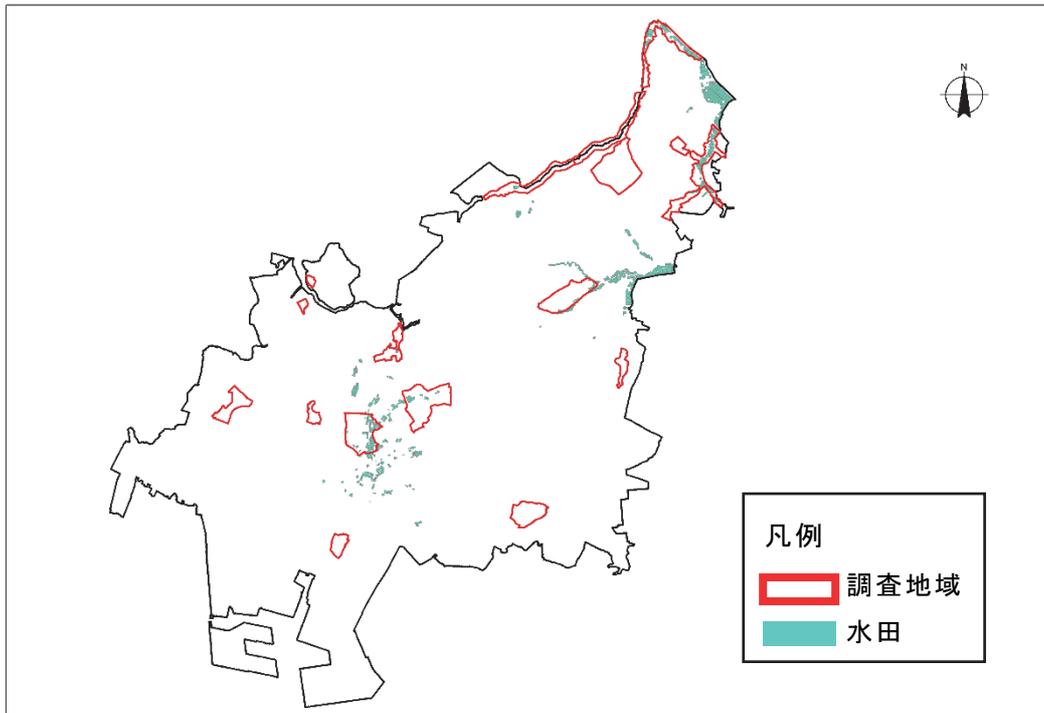
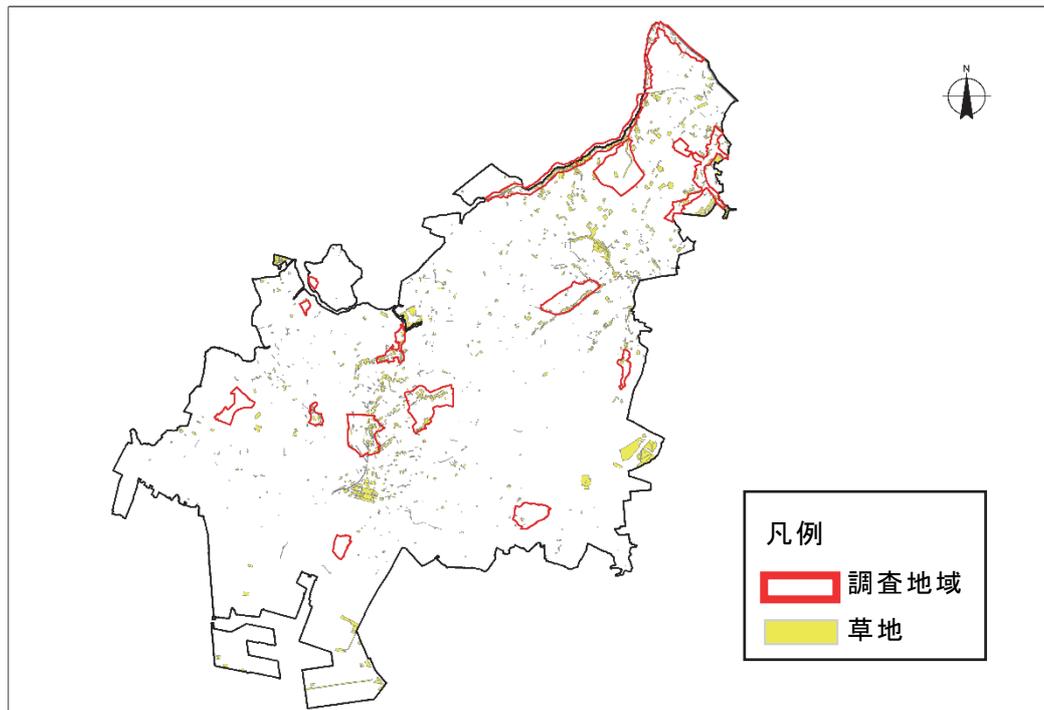


図 4-4 船橋市の水田の分布状況



※植生の分布図では、湿地・草地を含めて、草地として整理している。

図 4-5 船橋市の湿地の分布状況

水田や放棄水田雑草群落の中でも耕作されなくなって間もない低茎草本群落では、アゼナ、ハンゲショウ、タネツケバナ、イ、コウガイゼキショウ、コナギなどの水田雑草を主体とした湿性植物や、ドジョウ、メダカ南日本集団などの魚類が生育・生息しており、こうした水田雑草や魚類を餌とするダイサギ、コサギ、アオサギなどの鳥類や低茎草本群落で繁殖するセッカも生息している。このうち、止水環境にある水田や湿地などでは、ヒメゲンゴロウ、ヒメタニシ、コオイムシなどの水生昆虫やアゴトゲヨコエビなどの底生動物も生息している。

河川沿いなどに分布するオギ群落、ヨシクラスなどの高茎草本群落や耕作されなくなって時間が経った放棄水田雑草群落では、ツルヨシ、カサスゲなどの湿性植物が生育し、高茎草本群落を繁殖に用いるオオヨシキリ、カヤネズミが生息している。

ヤナギ低木群落、ハンノキ群落といった湿地の低木林では、ヤナギを食草とするコムラサキ、ハンノキを食草とするミドリシジミの生息地となっている。

湧水などの水の澄んだ流れの緩やかな湿地、細流には、オニスゲ、スナヤツメ類、ホトケドジョウが生育・生息している。

調査地域の水田・湿地全体を通して、シオカラトンボ、ギンヤンマ、コバネイナゴ、アキアカネなどの昆虫類やニホンアカガエル、トウキョウダルマガエル、ニホンアマガエル、シュレーゲルアオガエルなどのカエル類が多く生息しており、その周辺ではこれらのカエル類を捕食するシマヘビ、ヒバカリ、ヤマカガシなどのヘビ類も生息している。

また、河川沿いの水田・湿地では、特定外来生物のナガエツルノゲイトウ、オオフサモ、カダヤシも生育・生息している。

4) 河川・池沼

調査地域の多くは、海老川流域、桑納川流域、神崎川流域に位置する。船橋市の水面部の分布状況を図 4-6 に示す。

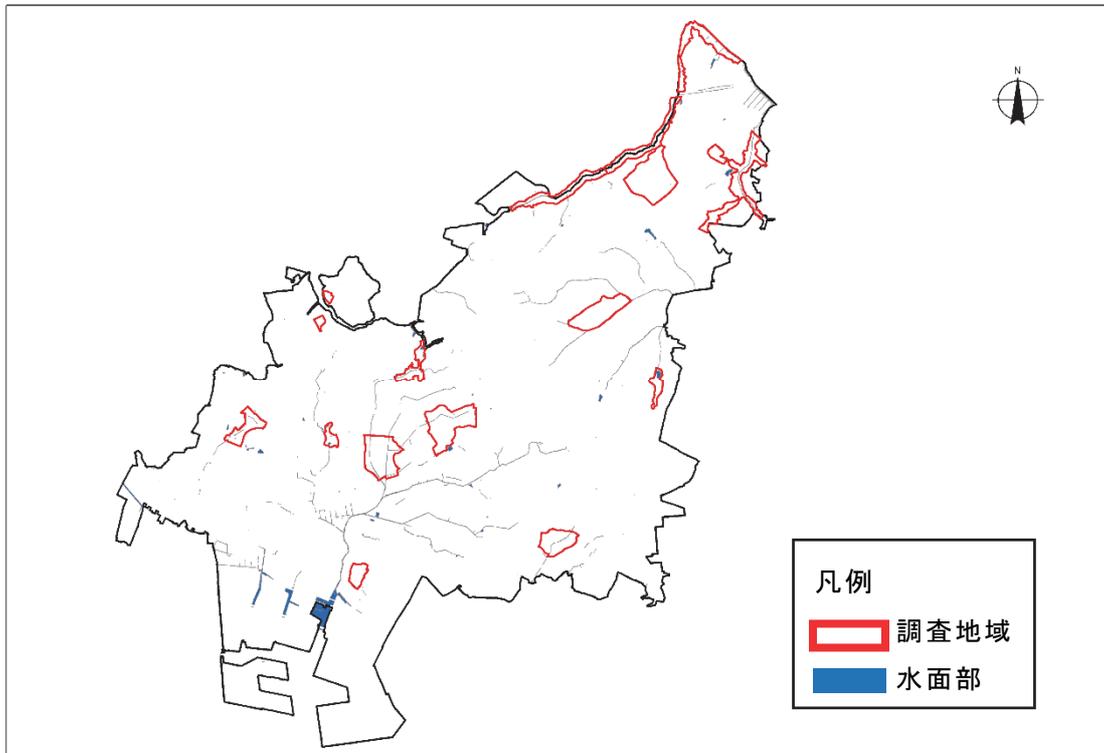


図 4-6 船橋市の水面部の分布状況

河川の上流、湧水などの水の澄んだ流れの緩やかな細流では、魚類のスナヤツメ類やホトケドジョウ、昆虫類のシマアメンボやオニヤンマが生息している。

水田などの用水路や中流域では、ミクリなどの湿生植物、ニホンアマガエルなどのカエル類、ニホンイシガメ、ニホンスッポンなどのカメ類、ドジョウ、モツゴなどの魚類、ハグロトンボなどの昆虫類が生育・生息している。

さらに下流の河川では、ヨシ、オギ、マコモなどの植物やドジョウ、モツゴに加え、コイやギンブナ、ウグイなどの魚類なども生育・生息している。こうした水田から河川の環境にかけて、ヒドリガモ、カルガモ、カワウ、カワセミ、イソシギなどの水鳥が生息している。海との連続性がある河川では、アユ、ウグイ、ボラ、ニホンウナギ、テナガエビやミズレヌマエビなどの海と河川を回遊する魚類、底生動物が生息している。

また、池沼などの止水域では、ミズニラなどの湿生植物や、ドブガイ、カトリヤンマ、ウチワヤンマ、マダラコガシラミズムシ、コガムシなどの底生動物が生育・生息している。

また、河川・池沼内では、特定外来生物のオオカワヂシャ、ナガエツルノゲイトウ、オオフサモ、ウシガエル、カダヤシ、ブルーギル、オオクチバスが生育・生息している。

5) 干潟・浅海域

船橋市の干潟・浅海域は南西部に位置する。

干潟・浅海域では、浅海域に広く生息しているマハゼ、アマモ場などに多く生息するニクハゼなどのハゼ類、アサリ、オキシジミ、サクラガイなどの二枚貝やミズヒキゴカイなどのゴカイ類などの底生動物が生息している。また、干潟・浅海域に生息する貝類やゴカイ、甲殻類などの底生動物を採餌するスズガモや、ハマシギ、ダイゼン、ミヤコドリや魚類を採餌するカワウなどの鳥類が生息している。

資料編：用語解説

- 逸出種
栽培されていた生物が人の管理をはなれて繁殖し、野生化したもの。
- 外来種
人間の活動により他の地域から入ってきた種。
- 河岸段丘面、河岸段丘崖
地盤の上昇などによって、河川がもとの河床を浸食して新たな谷をつくり、もとの河床が一段高いところに台地として残ったもの。平坦な面を河岸段丘面、河岸段丘面を侵食してできた崖を河岸段丘崖と呼ぶ。
- 帰化率
外来種÷（在来種＋外来種）を指し、外来種の侵入割合を示したもの。帰化率は、自然環境に人間の活動が与えた影響の程度、自然破壊の程度を表す指標として用いられる。
- 高茎草本群落、低茎草本群落
オギ・ヨシなど背丈の高い草本を高茎草本、タデ類、スゲ類など背丈の低い草本を低茎草本と呼ぶ。これらの草本が集まる群落のことをそれぞれ、高茎草本群落、低茎草本群落と呼ぶ。
- 在来種
人間の活動によらずに、自然に分布、生育・生息している種。
- 止水域
水がほとんど流れていない湖や池、沼などの水域であり、これに対して流れのある河川、溪流などを流水域と呼ぶ。
- 蛇カゴ護岸
針金などで網目に編んだかごに玉石、砂利を詰めて護岸とするもの。
- 生物多様性
生き物の豊かな個性とつながりのことで、生物多様性条約では、生態系の多様性・種の多様性・遺伝子の多様性の3つの階層で多様性があるとしている。
- 生物多様性地域戦略
生物多様性基本法で自治体での策定が努力義務として定められている、生物の多様性の保全及び持続可能な利用に関する基本的な計画。
- 遷移
ある場所の植物群落が、時間と共に別の群落へと変わっていくこと。
- 代償植生
もともとその土地にあった植生（自然植生）が、人間の活動により代わって生じた植生。

- ・抽水植物
水底の土壌に根を張り、葉や茎の一部は水面から出るヨシなどの植物。
- ・堤外地、堤内地
堤防によって洪水から守られている側を堤内地、堤防に挟まれて水が流れている側を堤外地と呼ぶ。
- ・特定外来生物
外来種のうち、生態系、人の生命・身体、農林水産業へ被害を及ぼす種、または及ぼすおそれがある種で、外来生物法によって指定されているもの。
- ・二次林
伐採や風水害などによって森林が破壊された後に、自然または人為的に再生した森林のこと。
- ・半自然草地
人の手が加わることで、維持されている草地。
- ・船橋市内環境調査
平成 11～13 年度に船橋市が実施した調査。全域調査、特定地域調査、河川・水域調査、文献調査、聞き取り調査、環境保全意識調査が実施している。このうち、特定地域調査では、市内における自然環境が比較的豊かな地域のうち、代表的な地域を 14 地域選定し、植物、鳥類、両生類・爬虫類、昆虫類、哺乳類等について調査が実施している。また、河川・水域調査では、市内を流れる海老川流域、利根川流域を対象に水域とその周辺に生息する動植物について調査が実施している。なお、湧水地についての調査もあわせて実施している。
- ・矢板護岸
板状の杭（矢板）を打ち込んで護岸とするもの。
- ・要注意外来生物
特定外来生物に該当しないが、生態系に悪影響を及ぼすおそれのある外来種で、環境省により指定されている種。
- ・ヨシクラス
植生の区分の 1 つ。河川のよどみ、河川沿いの湿地や後背湿地等の水位の増減や流水が少なく、底質が泥や粘土質な立地に成立するヨシ、マコモ等が生育する湿原のこと。